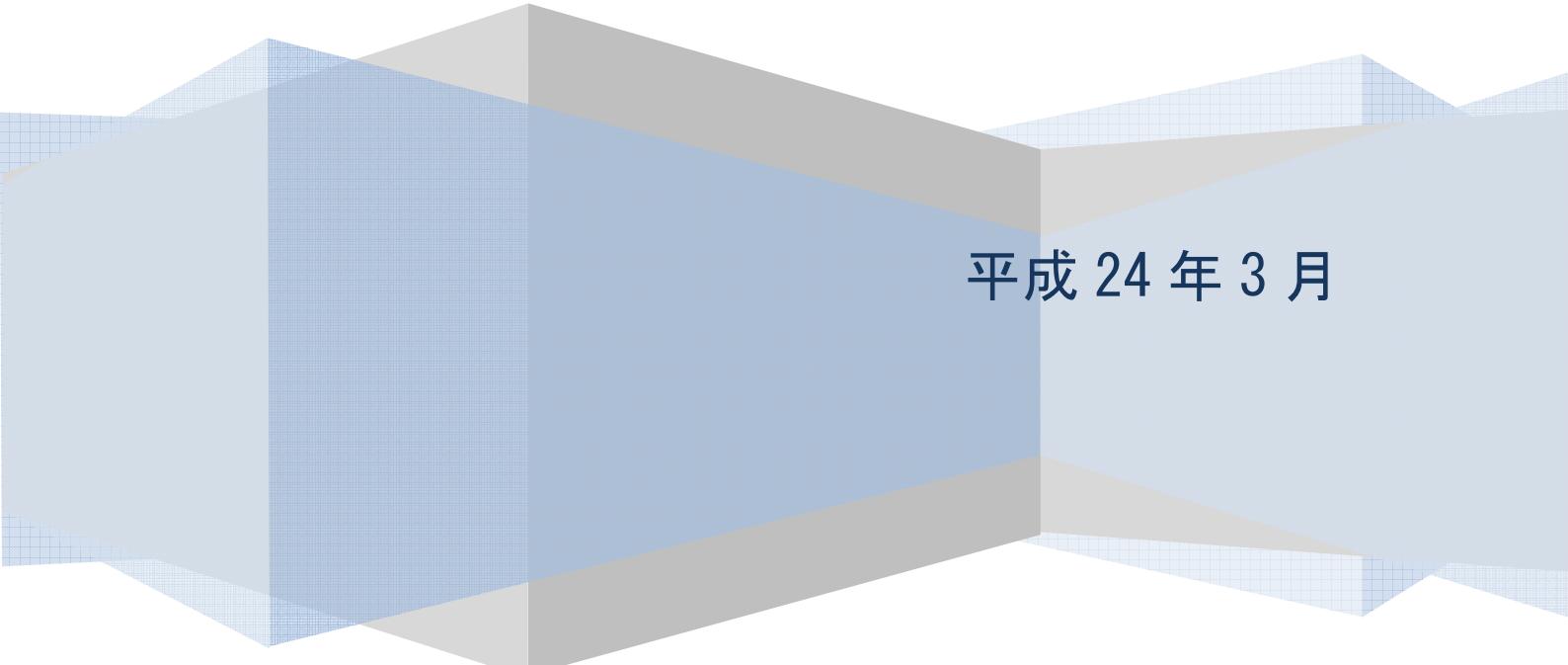


【岩内町】

高齢者日常生活調査結果報告書



平成 24 年 3 月

目次

1. 調査の概要	3
(1) 調査票の種類と対象者	3
(2) 調査期間と調査方法	3
(3) 集計にあたって	3
(4) リスク評価について	3
2. 調査票の回収状況について	
(1) 調査票の回収状況	5
(2) 調査対象者内訳	6
3. 二次予防について	
(1) 二次予防該当者について	9
(2) 二次予防該当者男女比について	9
(3) 二次予防該当者男女・年齢別人数について	10
(4) 二次予防該当者が各年齢に占める割合について	10
4. 虚弱判定について	
(1) 虚弱判定該当者について	11
(2) 虚弱判定該当者男女比について	11
(3) 虚弱判定該当者男女・年齢別人数について	12
(4) 虚弱判定該当者が各年齢に占める割合について	12
5. 運動器判定について	
(1) 運動器判定該当者について	13
(2) 運動器判定該当者男女比について	13
(3) 運動器判定該当者男女・年齢別人数について	14
(4) 運動器判定該当者が各年齢に占める割合について	14
6. 栄養改善判定について	
(1) 栄養改善判定該当者について	15
(2) 栄養改善判定該当者男女比について	15
(3) 栄養改善判定該当者男女・年齢別人数について	16
(4) 栄養改善判定該当者が各年齢に占める割合について	16
7. 口腔機能判定について	
(1) 口腔機能判定該当者について	17
(2) 口腔機能判定該当者男女比について	17
(3) 口腔機能判定該当者男女・年齢別人数について	18
(4) 口腔機能判定該当者が各年齢に占める割合について	18
8. 閉じこもり予防判定について	
(1) 閉じこもり予防判定該当者について	19
(2) 閉じこもり予防判定該当者男女比について	19
(3) 閉じこもり予防判定該当者男女・年齢別人数について	20
(4) 閉じこもり予防判定該当者が各年齢に占める割合について	20

9. 認知症予防判定について	
(1) 認知症予防判定該当者について	21
(2) 認知症予防判定該当者男女比について	21
(3) 認知症予防判定該当者男女・年齢別人数について	22
(4) 認知症予防判定該当者が各年齢に占める割合について	22
10. うつ予防判定について	
(1) うつ予防判定該当者について	23
(2) うつ予防判定該当者男女比について	23
(3) うつ予防判定該当者男女・年齢別人数について	24
(4) うつ予防判定該当者が各年齢に占める割合について	24
11. 転倒リスク判定について	
(1) 転倒リスク判定該当者について	25
(2) 転倒リスク判定該当者男女比について	25
(3) 転倒リスク判定該当者男女・年齢別人数について	26
(4) 転倒リスク判定該当者が各年齢に占める割合について	26
(5) 転倒リスク判定該当者男女・点数別人数について	27
12. ADL 得点について	
(1) 男性の年齢別 ADL 得点について	28
(2) 女性の年齢別 ADL 得点について	30
13. IADL 判定について	
(1) 男性の年齢別 IADL 判定について	32
(2) 女性の年齢別 IADL 判定について	34
14. 知的運動性について	
(1) 男性の知的運動性判定について	36
(2) 女性の知的運動性判定について	38
15. 社会的役割について	
(1) 男性の社会的役割判定について	40
(2) 女性の社会的役割判定について	42
16. 岩内町全体の生活機能評価結果について	44
17. 訪問給食サービスについて	
(1) 訪問給食サービスを知っている人数について	45
(2) 訪問給食サービスの提供内容について	45
(3) メニューの組み合わせごとの人数について	46
(4) 訪問給食サービスの値段について	46
(5) 訪問給食サービスを利用したいかについて	47

1. 調査の概要

(1) 調査票の種類と対象者

調査票の作成：国が示した「日常生活圈域ニーズ調査」を元に、町独自の設問を追加

対象者：65歳以上で要介護1～5の認定を受けている方を除く 3847名

(2) 調査期間と調査方法

調査期間：平成23年9月26日～平成24年1月20日

調査方法：郵送による配布・回収

(3) 集計にあたって

- ・各リスク分析は、国が提供した「生活支援ソフト」を使用して実施している。
- ・無回答や不正な回答により判定不能となっているケースがある。
- ・集計は、表計算ソフトで行っているため、100%とならない場合がある。

(4) リスク評価について

①生活機能の評価について

- 介護予防の対象者の把握につながる生活機能の低下している人の割合の把握
 - ・介護予防事業に使用されている「基本チェックリスト」に関する調査項目により、生活機能の状況について把握することができる。
 - ・「基本チェックリスト」の項目を使用した生活機能の評価では、「運動器の機能」「閉じこもり予防」「栄養」「口腔機能」「認知症予防」「うつ予防」「虚弱」といった項目について、リスクがあるかを判定することができる。
 - ・また、「基本チェックリスト」による評価項目に加えて、「転倒リスク」及び「認知機能の障害程度」の評価を行うことができる。

②日常生活の評価について

- 活動的な日常生活をおくるための能力（手段的日常生活動作：IADL）が低下している人や基本的な動作に関する能力（日常生活動作能力：ADL）が低下している人の割合の把握
 - ・食事、排泄、更衣、整容、入浴など日常生活を送るために必要な基本動作のことを「日常生活動作能力：ADL」と言う。
 - ・また、ADLの次の段階として、買物、洗濯、電話、薬の管理など活動的な日常生活を送るための動作のことを「手段的日常生活動作：IADL」と言う。
 - ・ADL、IADLの判定に関する調査項目により、基本的な動作に関する能力（ADL）の低下、活動的な日常生活を送るための能力（IADL）の低下の状況について把握することができる。

③社会参加の評価について

- 余暇や創作など生活を楽しむ能力（知的能動性）や地域で社会的な役割を果たす能力（社会的役割）が低下している人の割合の把握

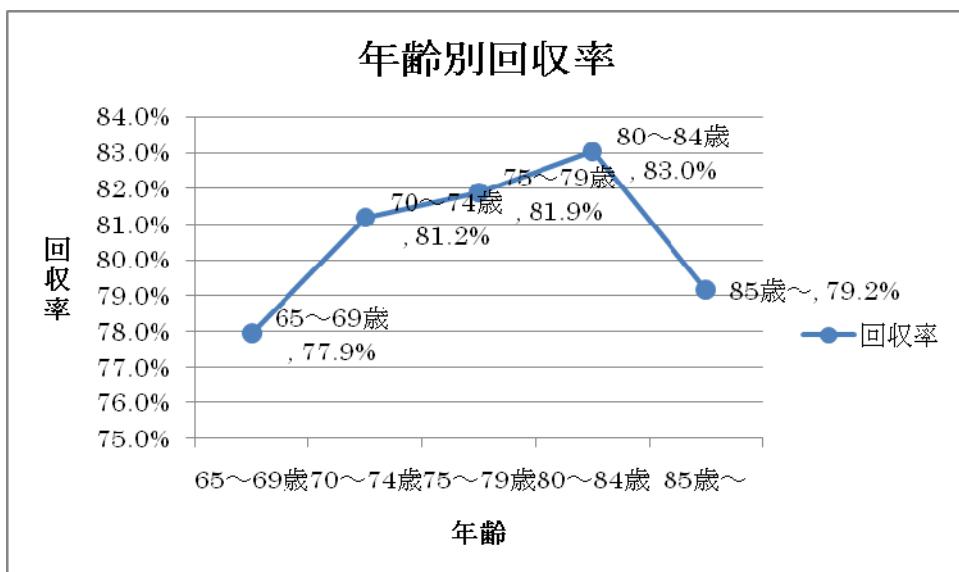
※基本チェックリスト：介護予防事業において「要介護状態等となるおそれの高い状態にあると認められる高齢者を早期に発見し、早期に対応すること」を二次予防事業と呼んでいる。この二次予防事業の対象者を把握するために、日常生活で必要となる機能（日常生活機能）の確認を行うが、その際に「基本チェックリスト」が使われる。「基本チェックリスト」は運動器の機能や栄養状態に関することなど25項目の質問で構成されている。

2. 調査票の回収状況について

(1) 調査票の回収状況

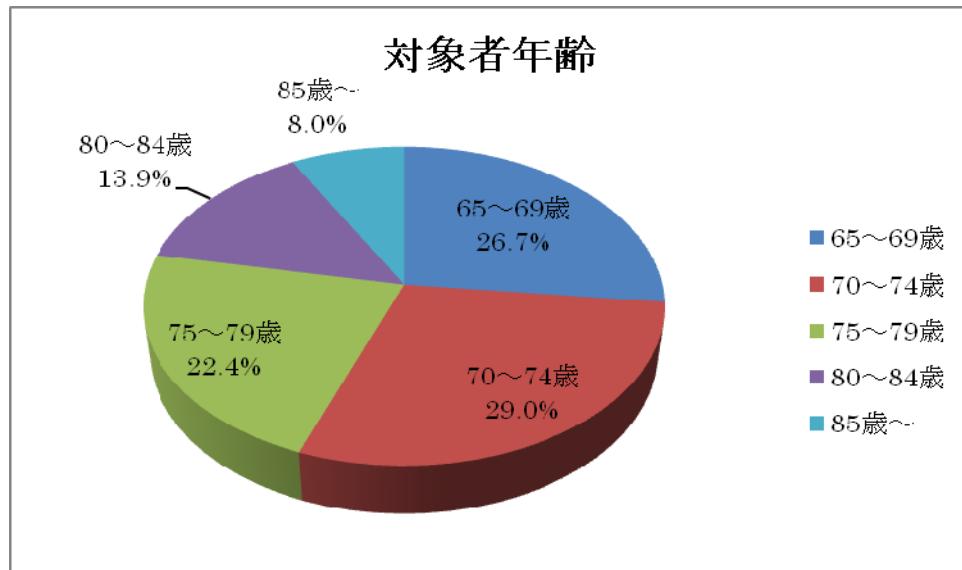
年齢	構成比	送付数 (人數)	回収数	回収率	男性				女性			
					送付数	構成比	回収数	回収率	送付数	構成比	回収数	回収率
65～69歳	26.7%	1029	802	77.9%	425	41.3%	310	72.9%	604	58.7%	492	81.5%
70～74歳	29.0%	1115	905	81.2%	447	40.1%	347	77.6%	668	59.9%	558	83.5%
75～79歳	22.4%	860	704	81.9%	385	44.8%	307	79.7%	475	55.2%	397	83.6%
80～84歳	13.8%	536	445	83.0%	199	37.1%	172	86.4%	337	62.9%	273	81.0%
85歳～	8.1%	307	243	79.2%	94	30.6%	80	85.1%	213	69.4%	163	76.5%
計	100.0%	3847	3099	80.6%	1550	40.3%	1216	78.5%	2297	59.7%	1883	82.0%

調査票の送付数は 3847 通で、回収数は 3099 通（男性 1216 通、女性 1883 通）となっている

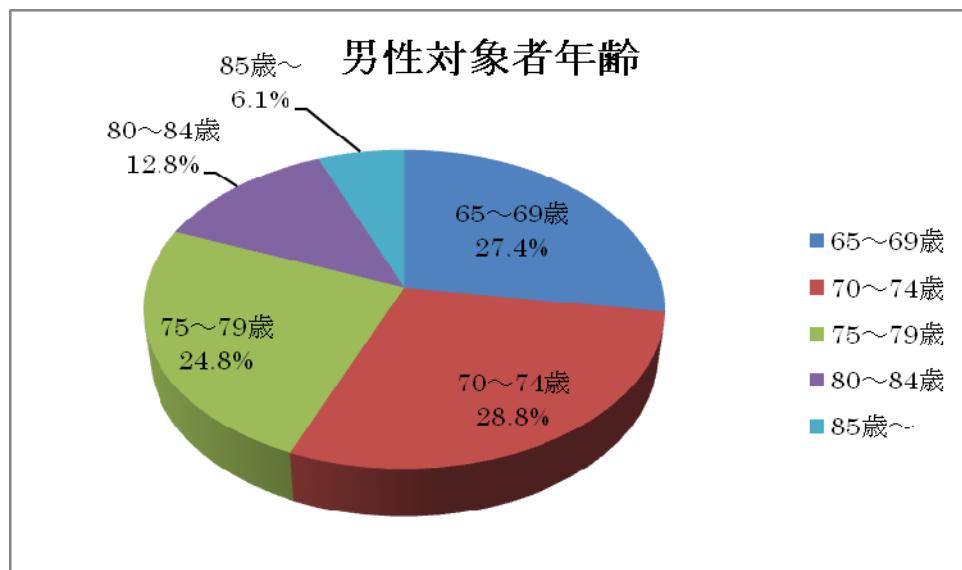


回収率を年代別に見ると、どの年代も約 80% 前後の値を示しており、平均すると 80.6% となる

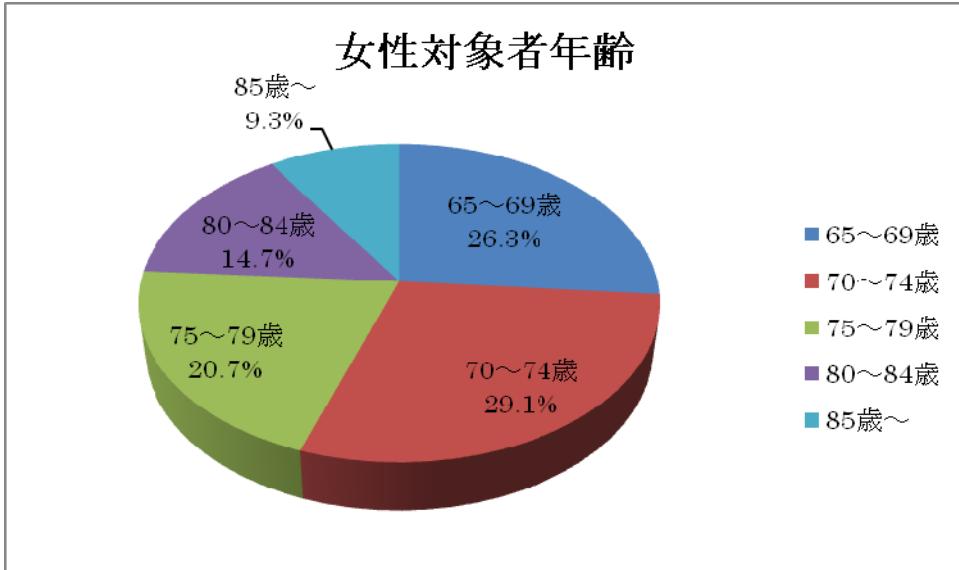
(2) 調査対象者内訳



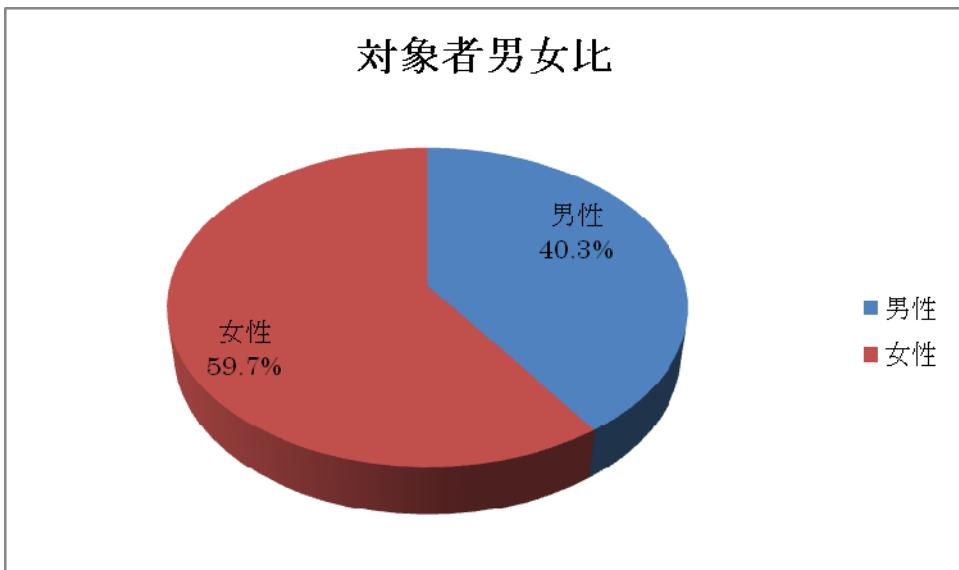
調査票を送付した対象者の年齢は、70～74歳が最も多く29.0%を占め、65～69歳が26.7%、75～79歳が22.4%と次いでいる



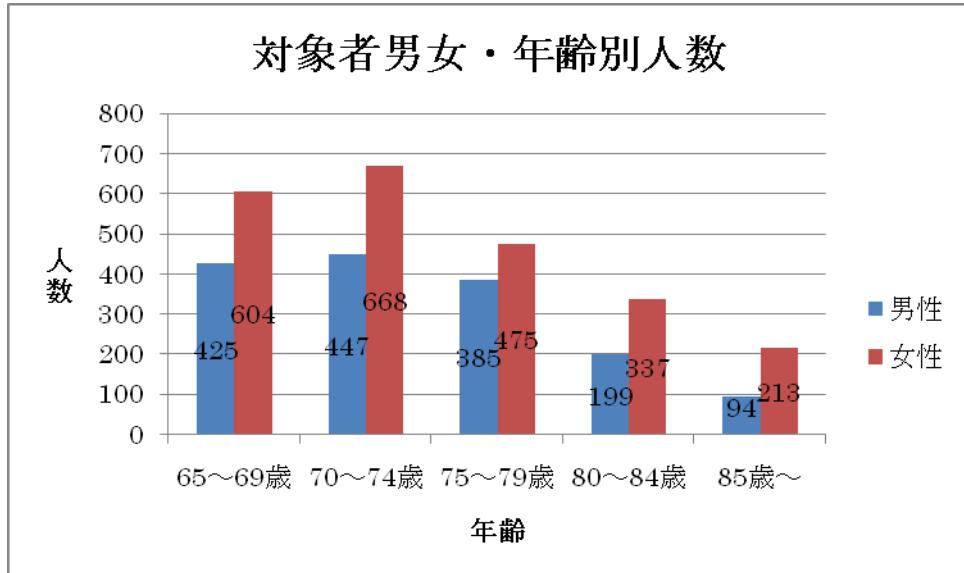
調査票を送付した男性対象者の年齢は、70～74歳が最も多く28.8%を占め、65～69歳が27.4%、75～79歳が24.8%と次いでおり、女性を含めた全体とほぼ同じ割合となっているが、高齢になるにつれて全体より割合が低くなっている



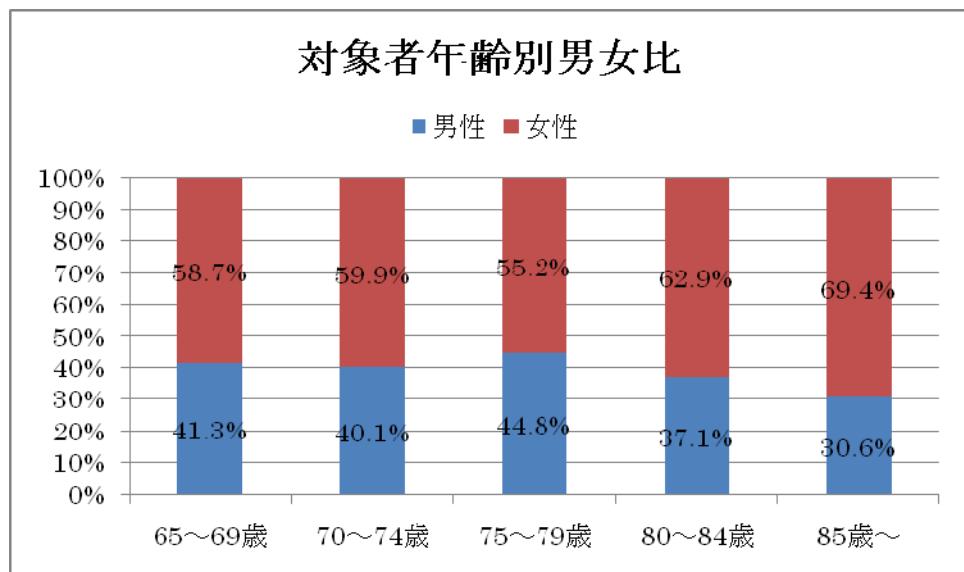
調査票を送付した女性対象者の年齢は、70～74歳が最も多く29.1%を占め、65～69歳が26.3%、75～79歳が20.7%と次いでおり、男性を含めた全体とほぼ同じ割合となっているが、高齢になるにつれ全体より割合が高くなっている



調査票を送付した対象者の男女比率は、男性40.3%、女性59.7%と女性が多くなっている



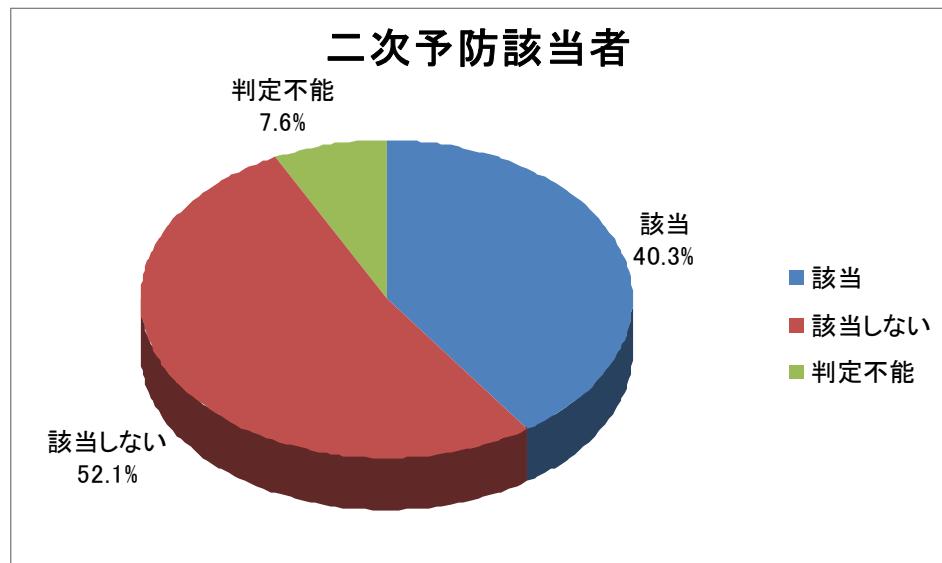
調査票を送付した対象者の年齢別人数は、70～74歳が男女とも最多となっている



調査票を送付した対象者の年齢別男女比は、65～84歳までは概ね男性4割、女性6割だが
85歳以上になると男性約3割、女性7割と男性の割合が減少している

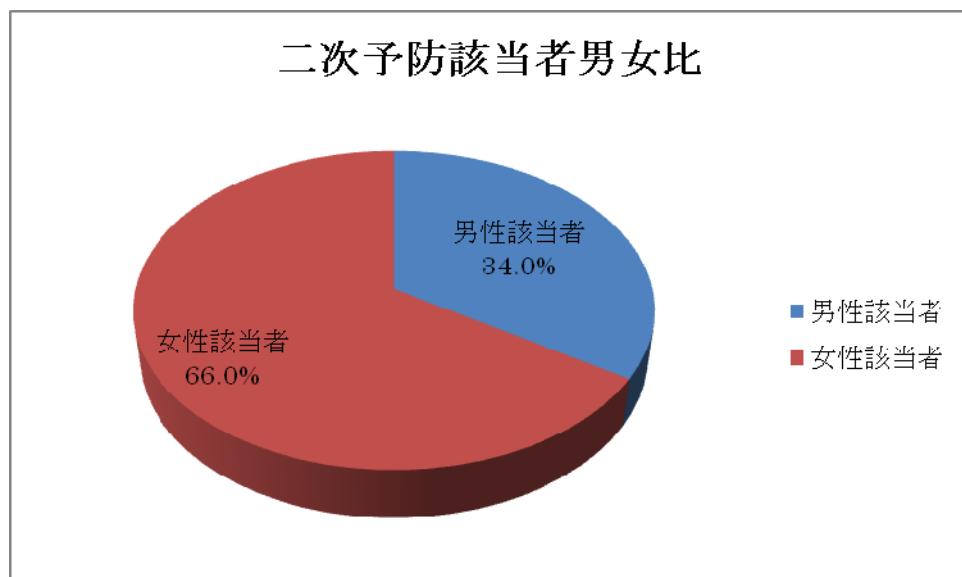
3. 二次予防について

(1) 二次予防該当者について



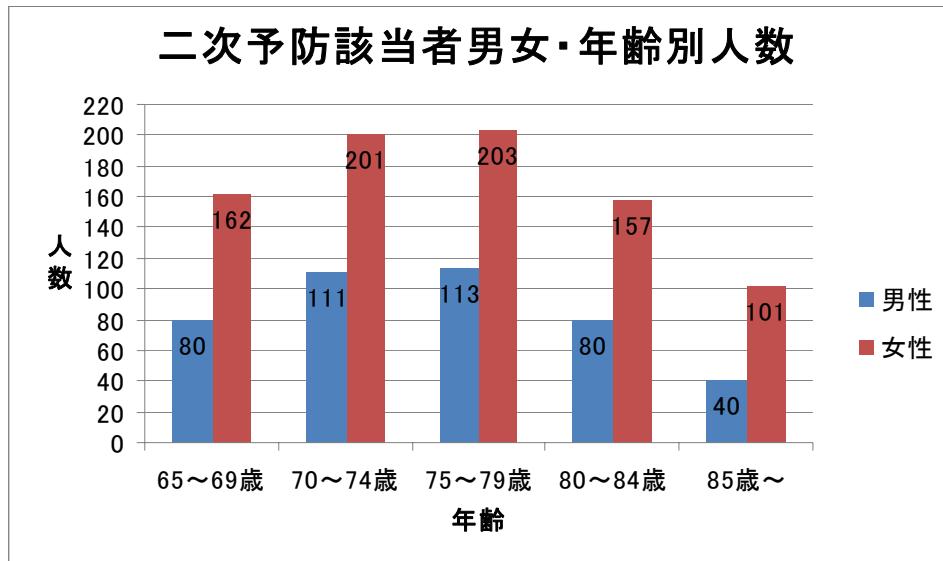
二次予防該当者は、全体の 40.3%(1248 人)となっている

(2) 二次予防該当者男女比について



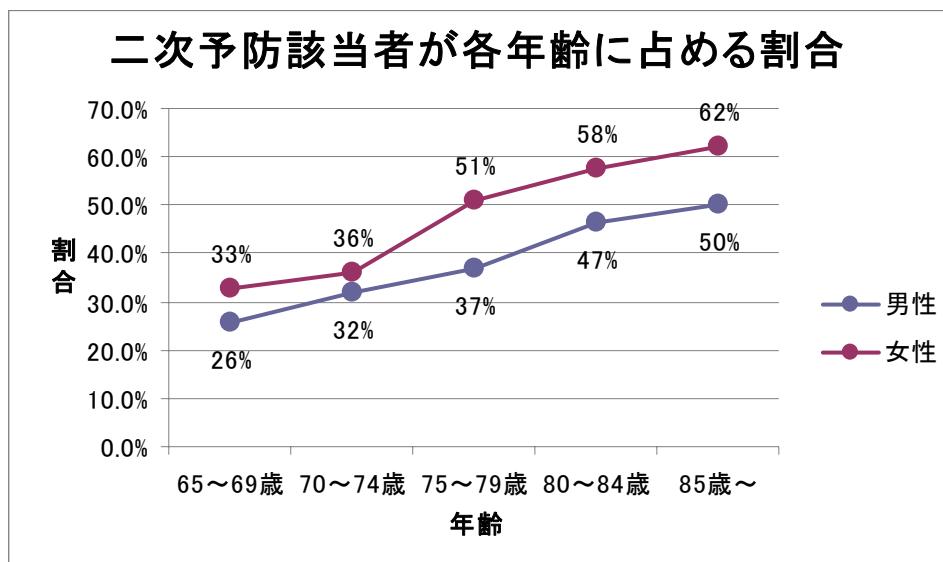
二次予防該当者の男女比は男性 34.0%、女性 66.0%となっている

(3) 二次予防該当者男女・年齢別人数について



二次予防該当者数は、男女とも 70~74 歳、75~79 歳がほぼ同数で、そこを頂点とした山形のグラフを形成している

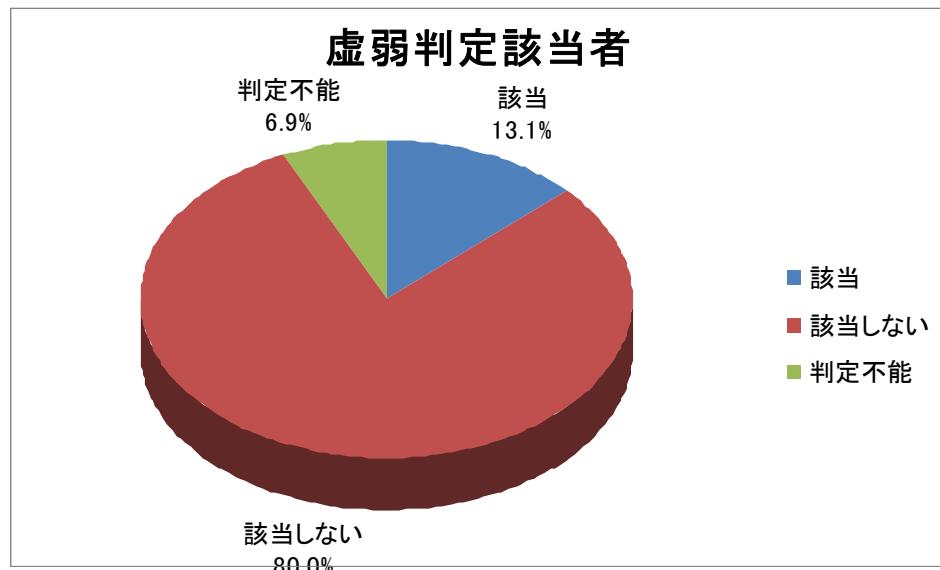
(4) 二次予防該当者が各年齢に占める割合について



二次予防該当者が各年齢に占める割合は、女性と比べると男性の割合が低い
男女とも右肩上がりで各年齢に占める二次予防該当者の割合が増加している

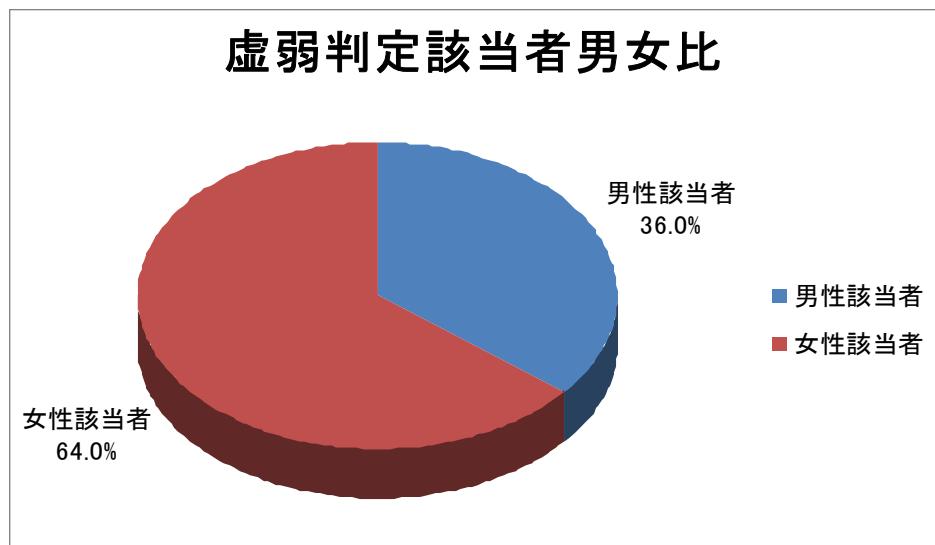
4. 虚弱判定について

(1) 虚弱判定該当者について



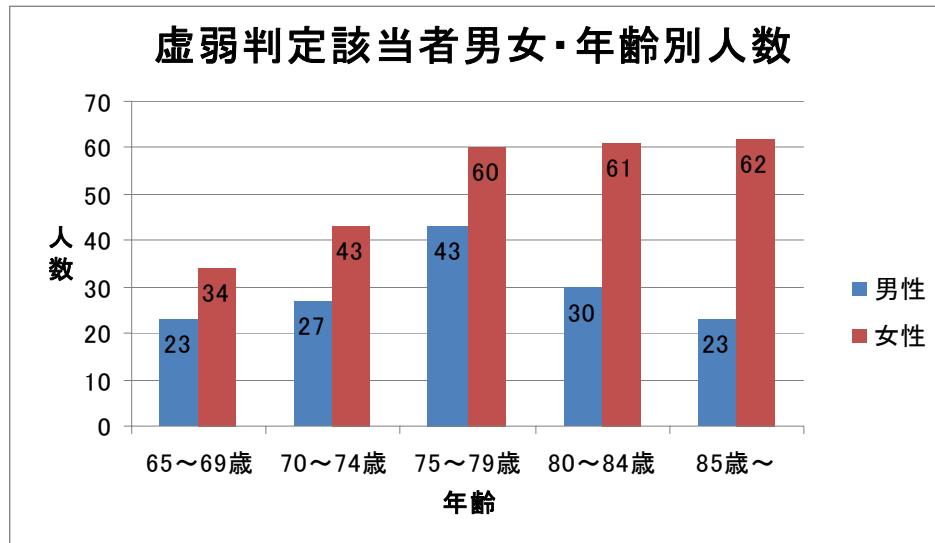
虚弱判定該当者は、全体の 13.1%(406 人)となっている

(2) 虚弱判定該当者男女比について



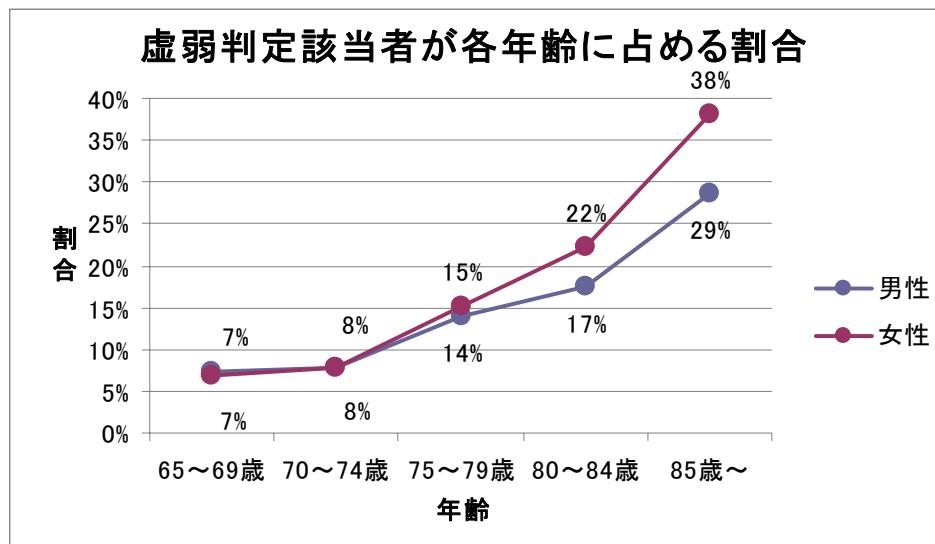
虚弱判定該当者の男女比は男性 36.0%、女性 64.0%となっており、全体の男女比と比べると若干男性が少なく、女性が多くなっている

(3) 虚弱判定該当者男女・年齢別人数について



虚弱判定該当者数は、男性は 75~79 歳を頂点とした山形となっており、女性は 75~79 歳までは増加しているが、それ以降はほぼ同数となっている

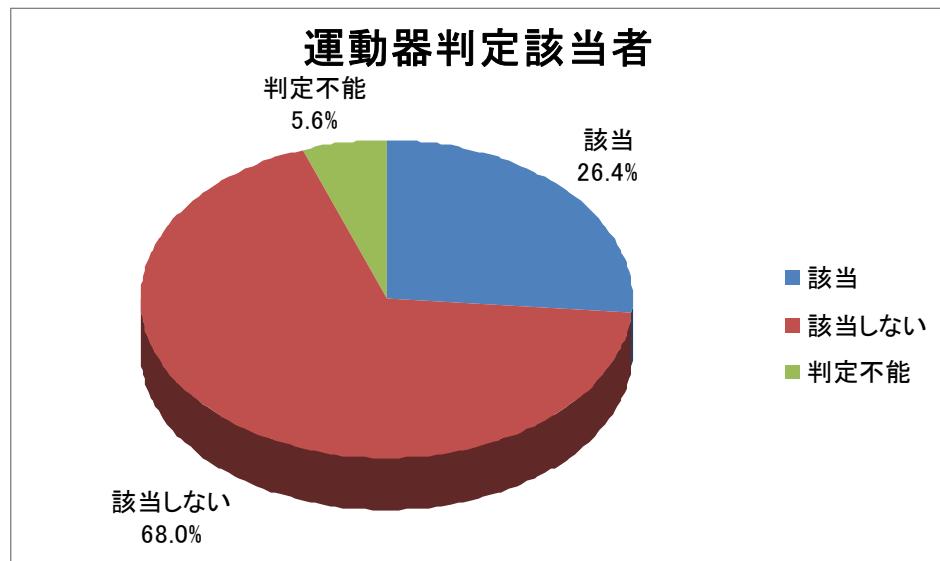
(4) 虚弱判定該当者が各年齢に占める割合について



虚弱判定該当者が各年齢に占める割合は、75~79 歳までは男女ともほぼ同じ割合となっており、高齢になるにつれてその割合が大きくなっている
80 歳以降、男性も女性も虚弱判定該当者が各年齢に占める割合が急に高くなっているが、特に女性はその傾向が顕著に表れている

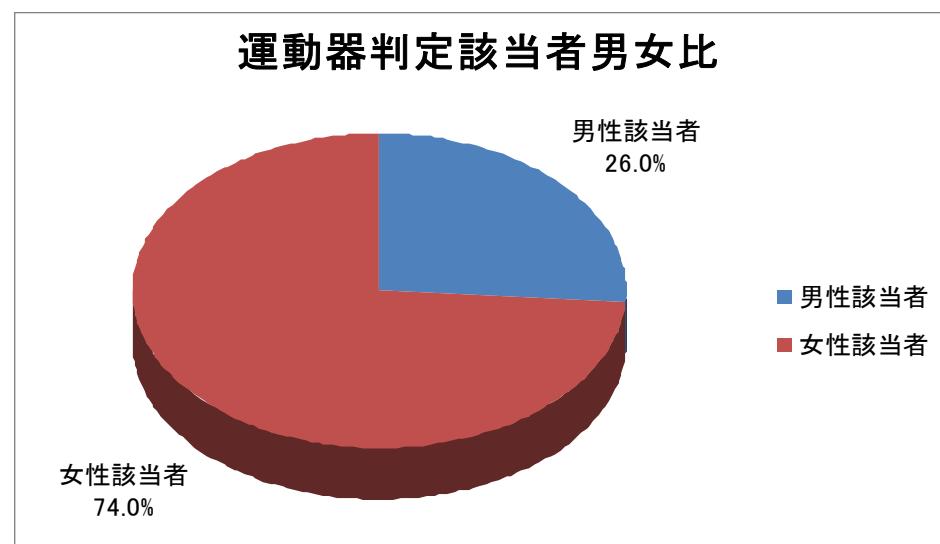
5. 運動器判定について

(1) 運動器判定該当者について



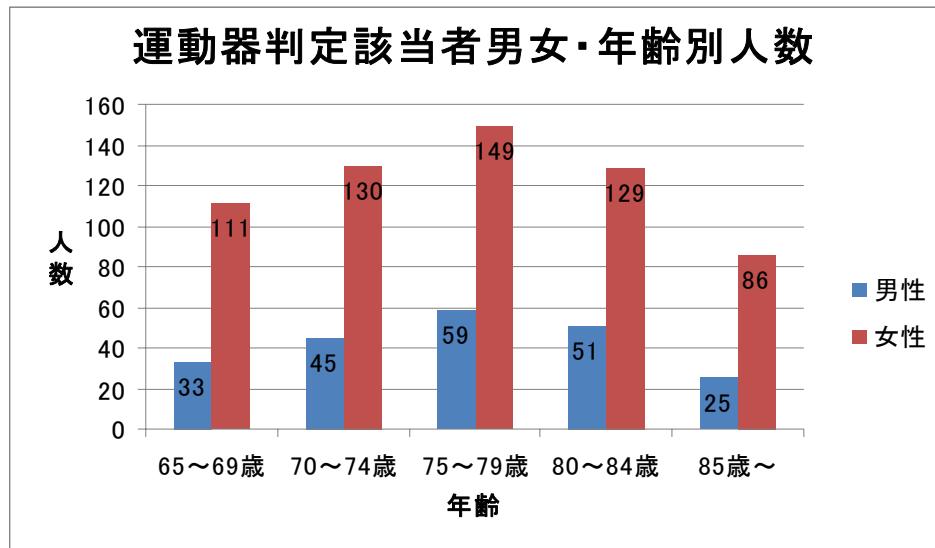
運動器判定該当者は、全体の 26.4%(818 人)となっている

(2) 運動器判定該当者男女比について



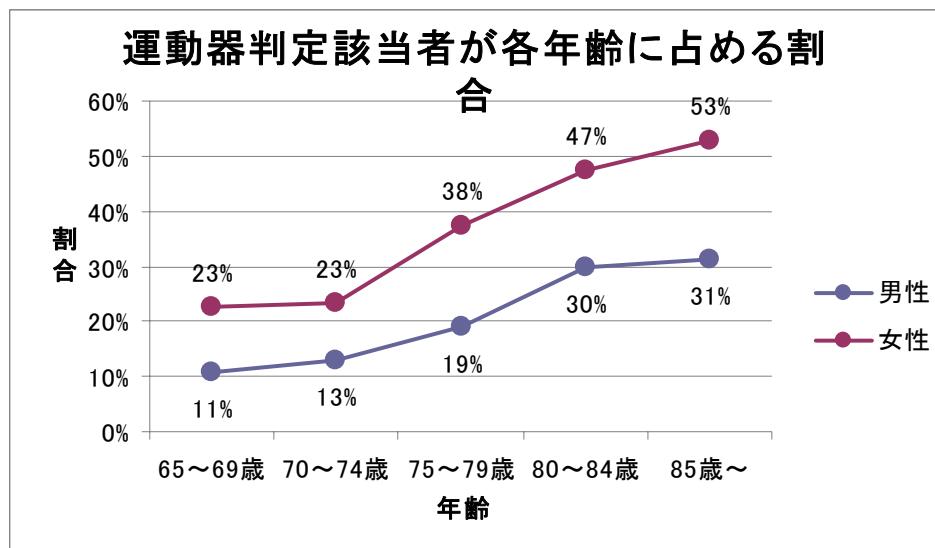
運動器判定該当者の男女比は男性 26.0%、女性 74.0%となっており、運動器判定該当者の約 3/4 を女性が占めている

(3) 運動器判定該当者男女・年齢別人数について



運動器判定該当者数は、男女とも 75~79 歳を頂点とした山形のグラフを形成している

(4) 運動器判定該当者が各年齢に占める割合について

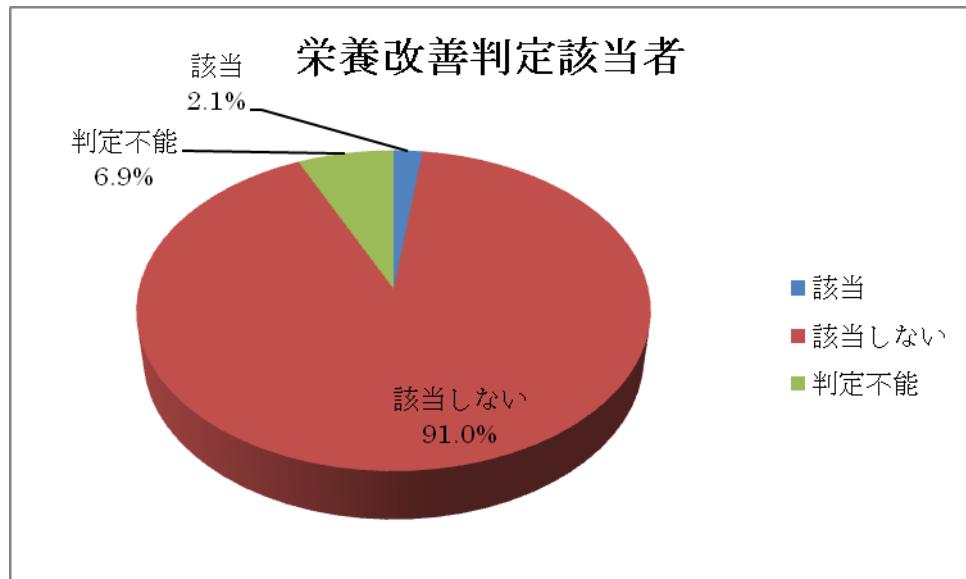


運動器判定該当者が各年齢に占める割合は、女性と比べると男性の割合が低い

女性は右肩上がりで各年齢に占める運動器判定該当者の割合が増加している

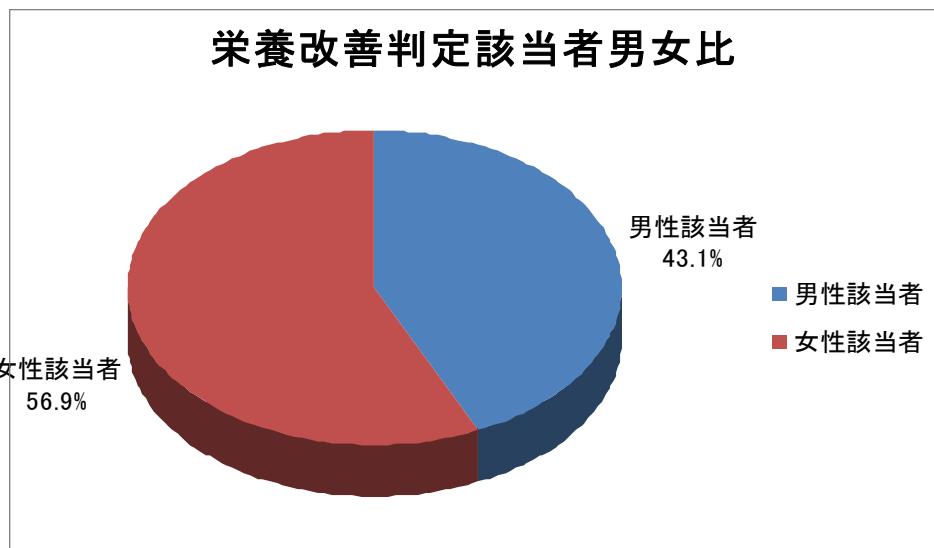
6. 栄養改善判定について

(1) 栄養改善判定該当者について



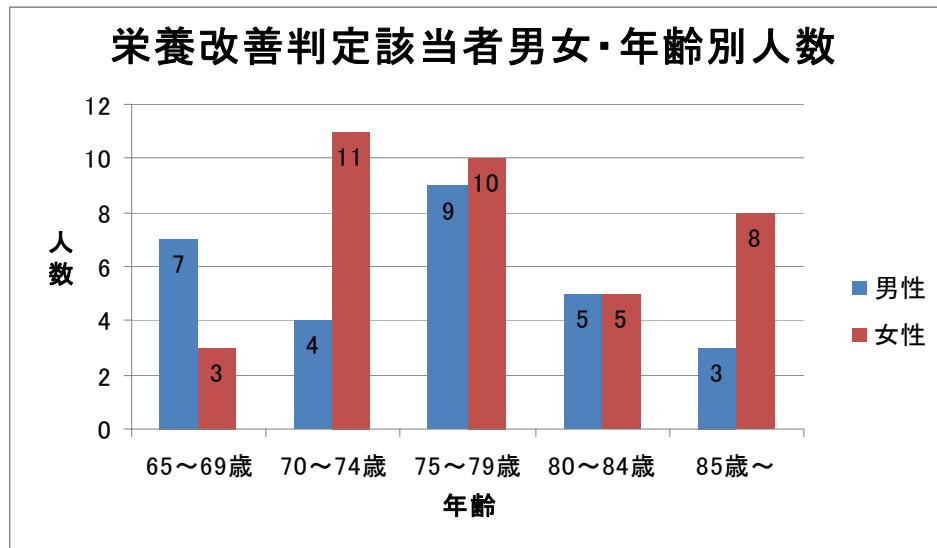
栄養改善判定該当者は、全体の 2.1%(65 人)となっている

(2) 栄養改善判定該当者男女比について



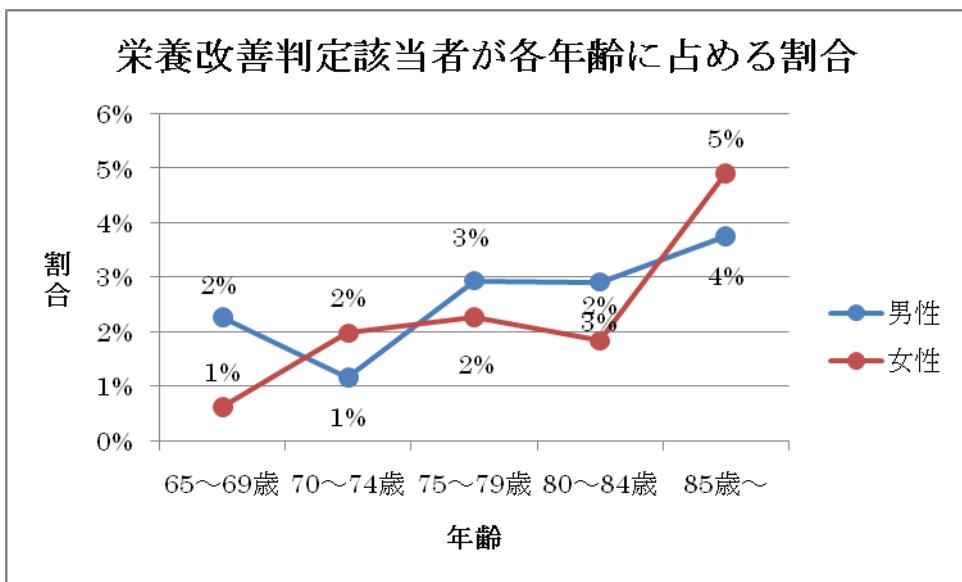
栄養改善判定該当者の男女比は、男性 43.1%、女性 56.9%となっており、全体の男女比とほぼ同じ比率となっている

(3) 栄養改善判定該当者男女・年齢別人数について



栄養改善判定該当者数は、全体的に人数が少なく年齢による傾向は把握できない

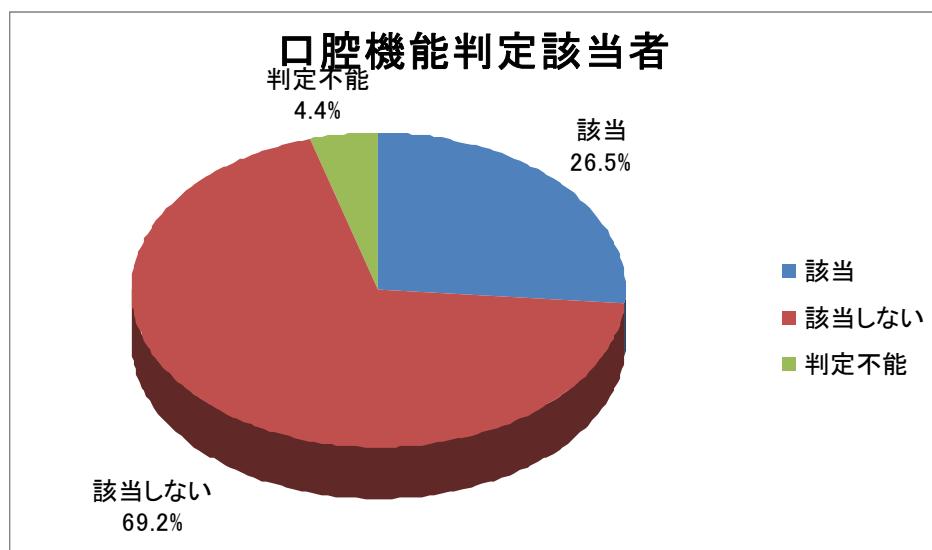
(4) 栄養改善判定該当者が各年齢に占める割合について



栄養改善判定該当者が各年齢に占める割合は、該当者数が少ないため全年齢を通して数%と少なくなっている

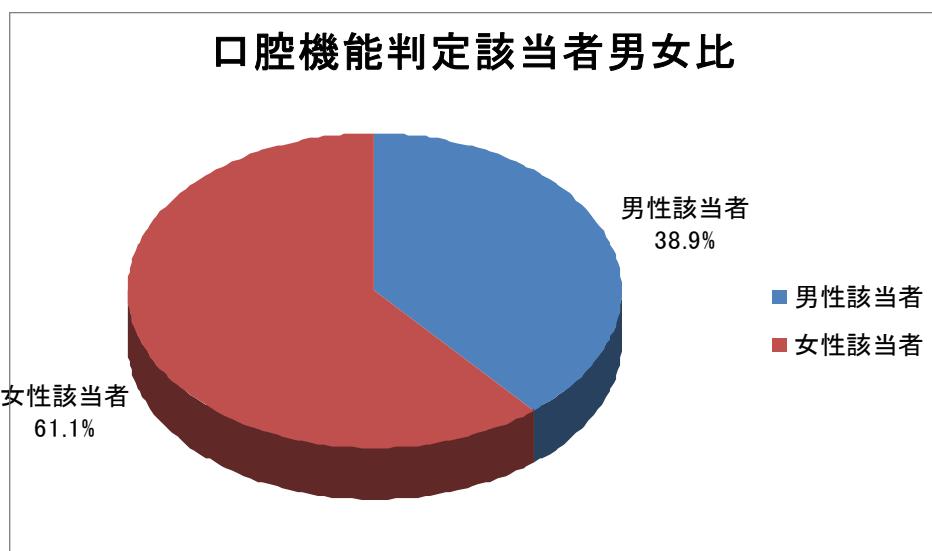
7. 口腔機能判定について

(1) 口腔機能判定該当者について



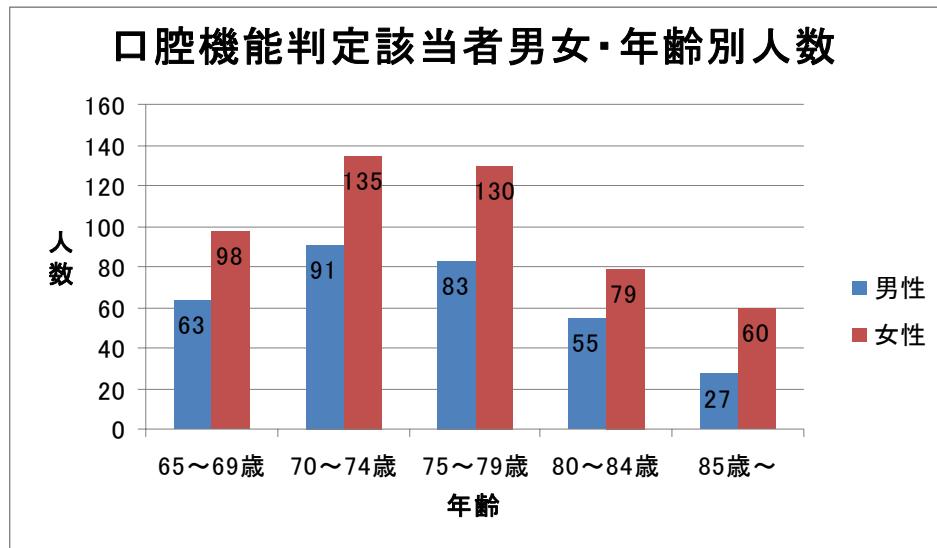
口腔機能判定該当者は、全体の 26.5%(821 人)となっている

(2) 口腔機能判定該当者男女比について



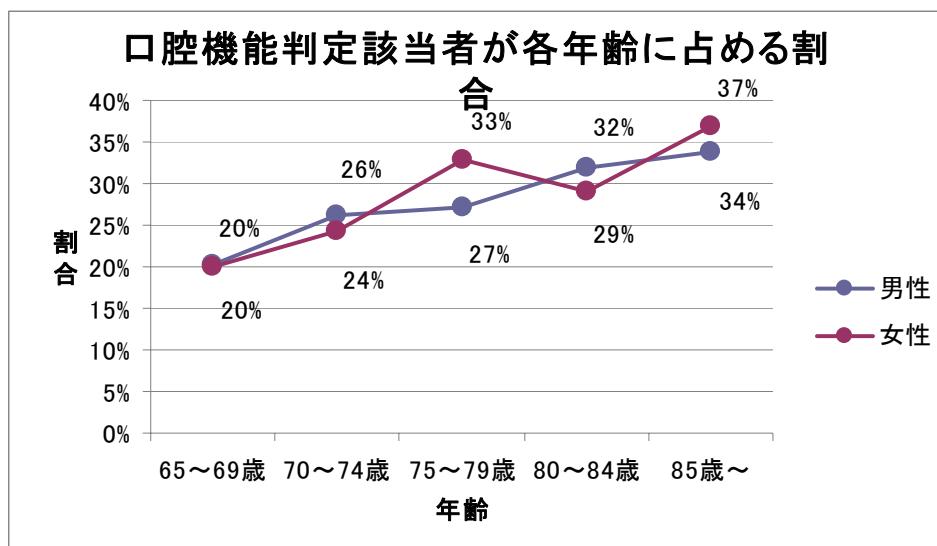
口腔機能判定該当の男女比は、男性 38.9%，女性 61.1%となっており、全体の男女比とほぼ同じ比率となっており、男女に関係なく口腔機能判定該当者がいる

(3) 口腔機能判定該当者男女・年齢別人数について



口腔機能判定該当者数は、男女とも 70~74 歳が最も多く、人口の多い年齢ほど口腔機能判定該当者の数が多くなっている

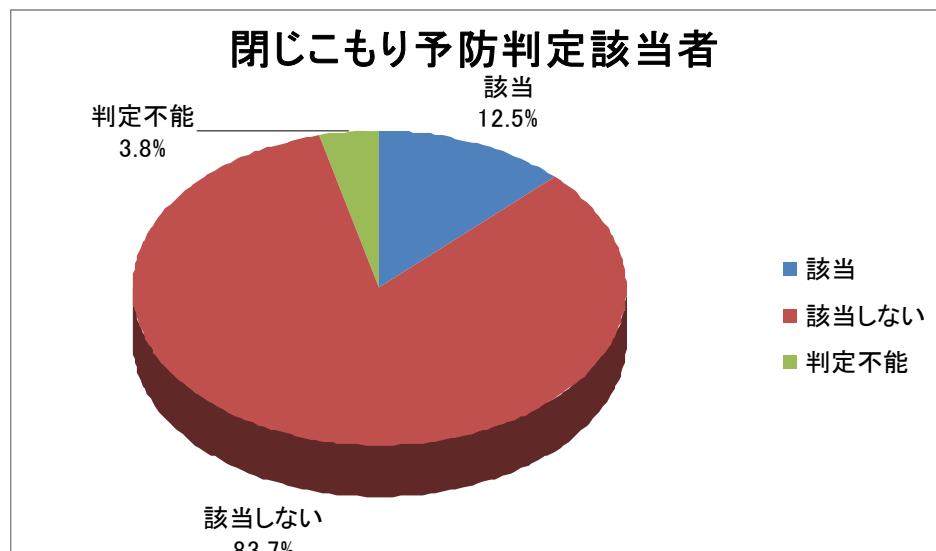
(4) 口腔機能判定該当者が各年齢に占める割合について



口腔機能判定該当者が各年齢に占める割合は、75~79 歳、80~84 歳で男女で差があるが全体を通すと男女とも右肩上がりで各年齢に占める口腔機能判定該当者の割合が増加している

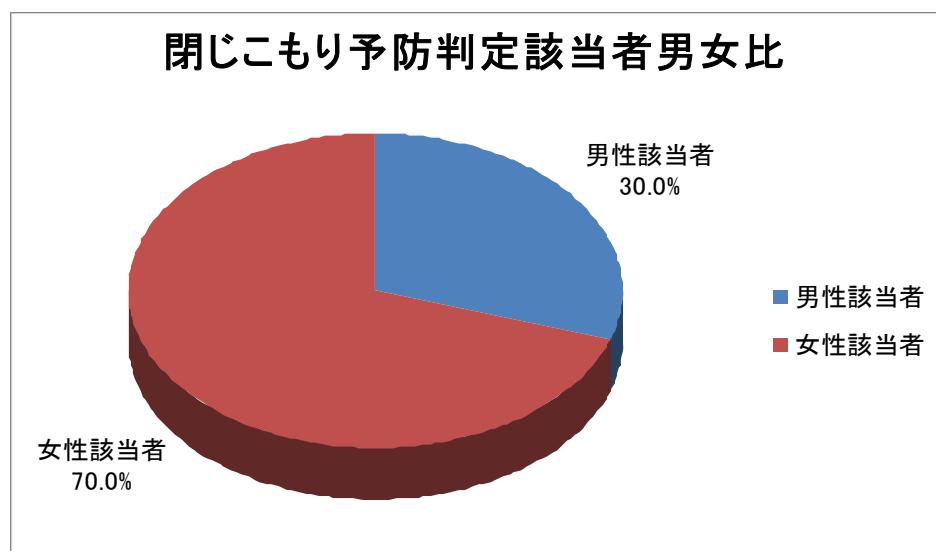
8. 閉じこもり予防判定について

(1) 閉じこもり予防判定該当者について



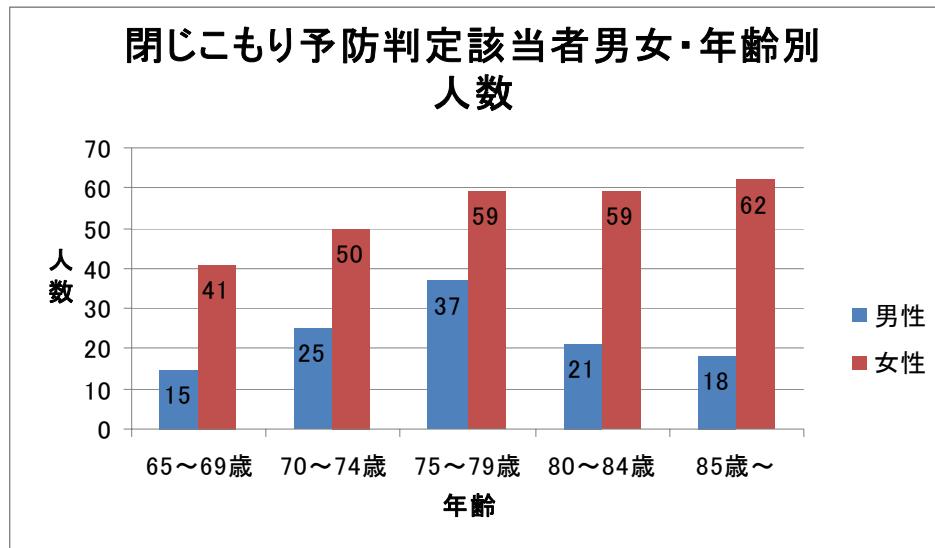
閉じこもり予防判定該当者は、全体の 12.5%(387 人)となっている

(2) 閉じこもり予防判定該当者男女比について



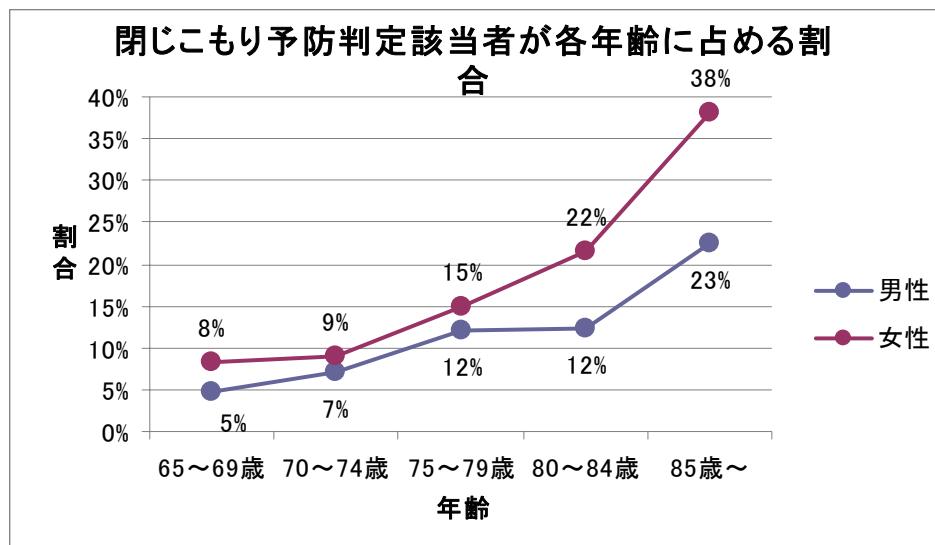
閉じこもり予防判定該当者男女比は、男性 30.0%、女性 70.0%となっている

(3) 閉じこもり予防判定該当者男女・年齢別人数について



閉じこもり予防判定該当者数は、男女とも 75~79 歳が最も多く、そこを頂点とした山形のグラフを形成している
男性は女性と比較して、差が大きい傾向がある

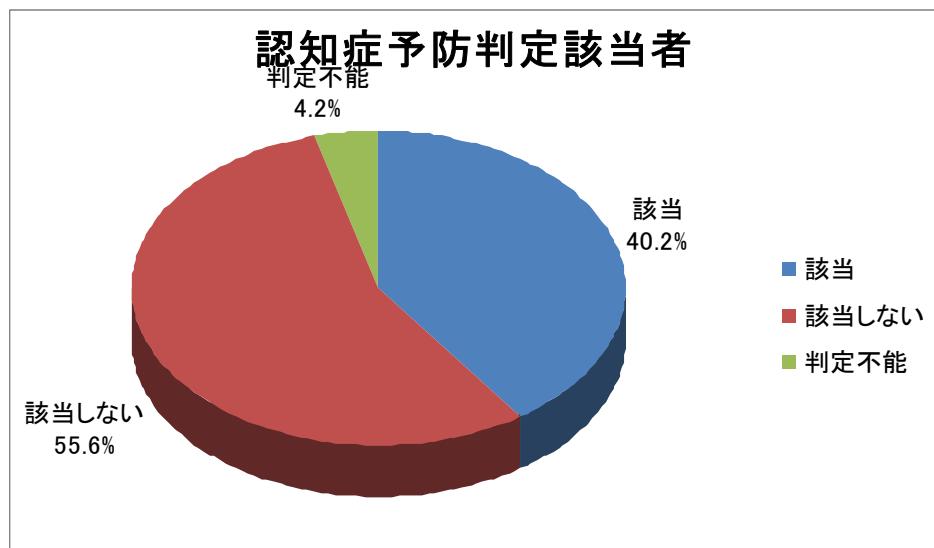
(4) 閉じこもり予防判定該当者が各年齢に占める割合について



閉じこもり予防判定該当者が各年齢に占める割合は、女性と比べると男性の割合が若干低い
男女とも 80~84 歳から 85 歳以上の割合の増加が急になっている

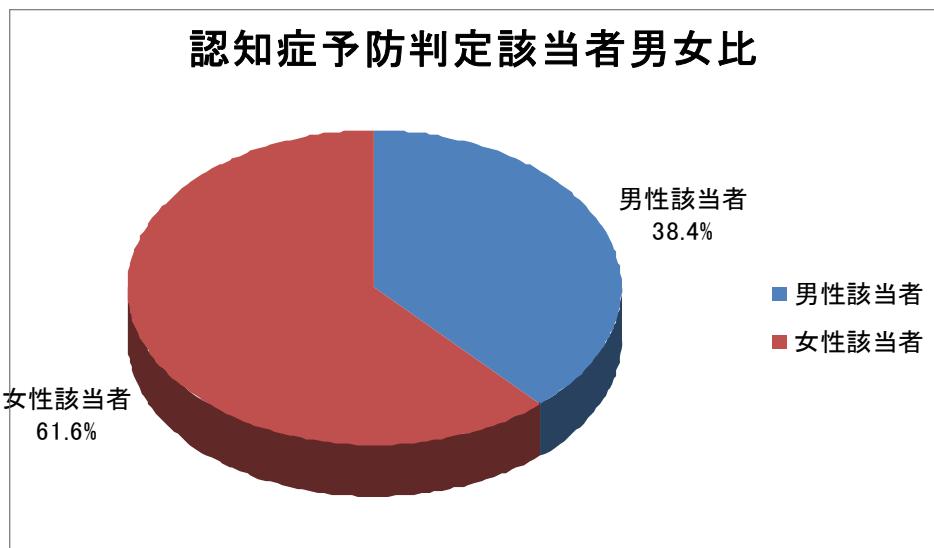
9. 認知症予防判定について

(1) 認知症予防判定該当者について



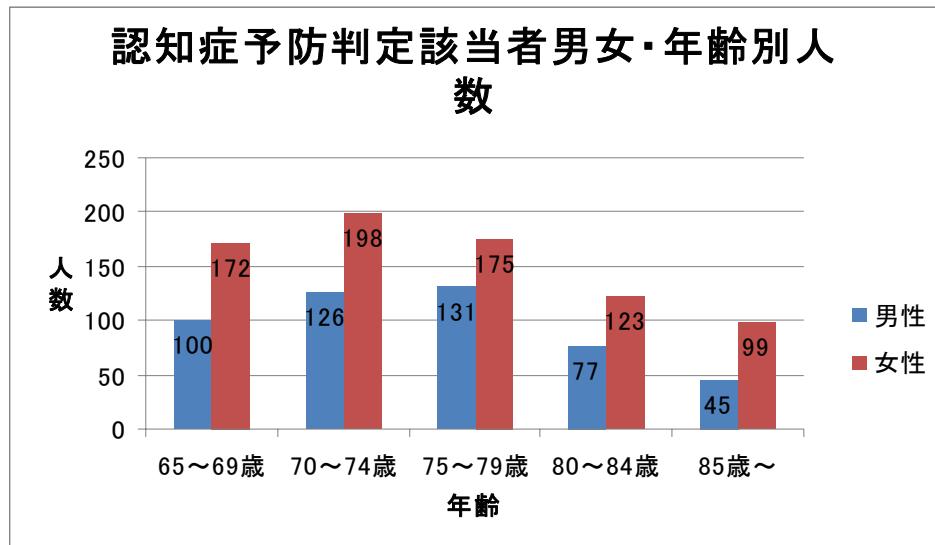
認知症予防判定該当者は、全体の 40.2%(1246 人)となっている

(2) 認知症予防判定該当者男女比について



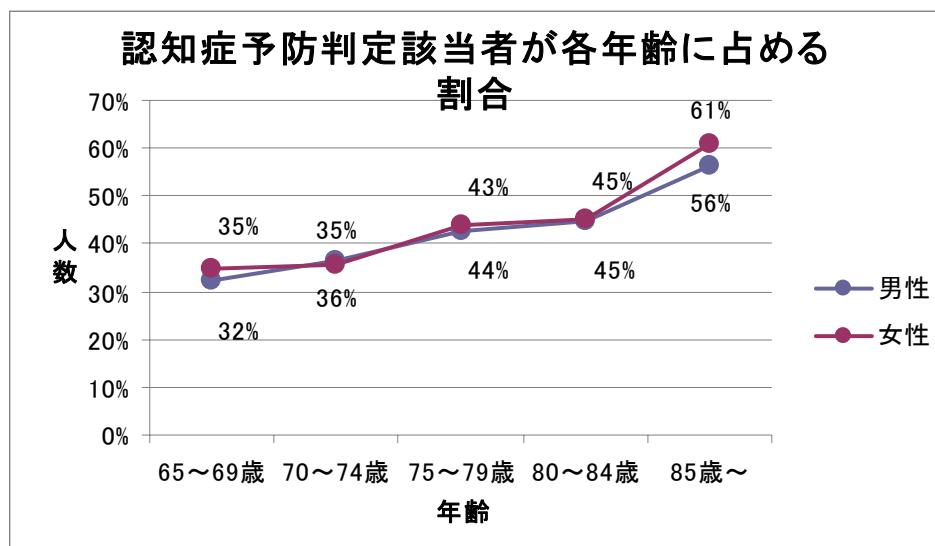
認知症予防判定該当者の男女比は、男性 38.4%、女性 61.6%となっており、全体の男女比とほぼ同じ比率となっており、男女に関係なく認知症予防判定該当者がいる

(3) 認知症予防判定該当者男女・年齢別人数について



認知症予防判定該当者数は、男性が 75~79 歳が最も多く、女性は 70~74 歳が最も多くなっており、男女で差がある

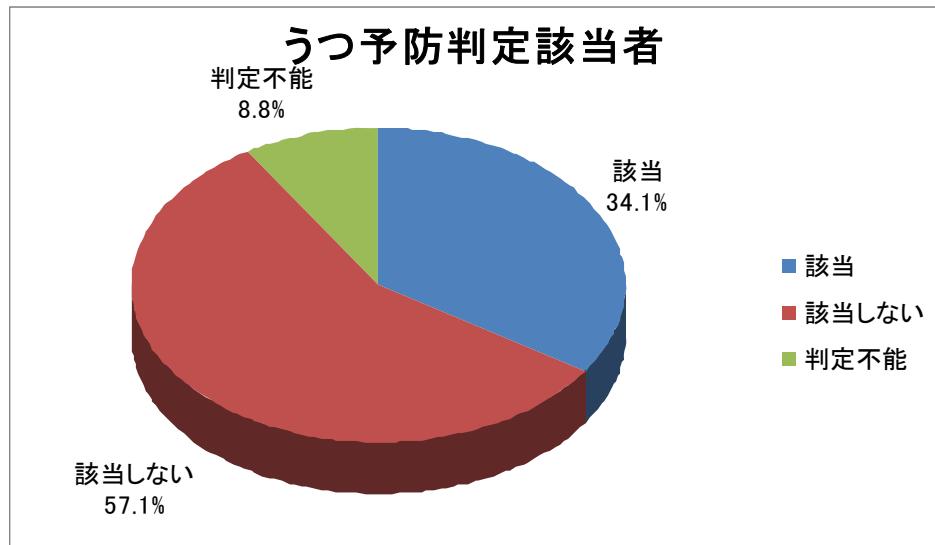
(4) 認知症予防判定該当者が各年齢に占める割合について



認知症予防判定該当者が各年齢に占める割合は、男女とも 85 歳以降が半数以上と高い割合となっている。特に女性は 85 歳以上で 61% が認知症予防判定該当者となっている。それ以外は、男女ともほぼ同じ割合となっており、右肩上がりで各年齢に占める口腔機能判定該当者数の割合が増加している。

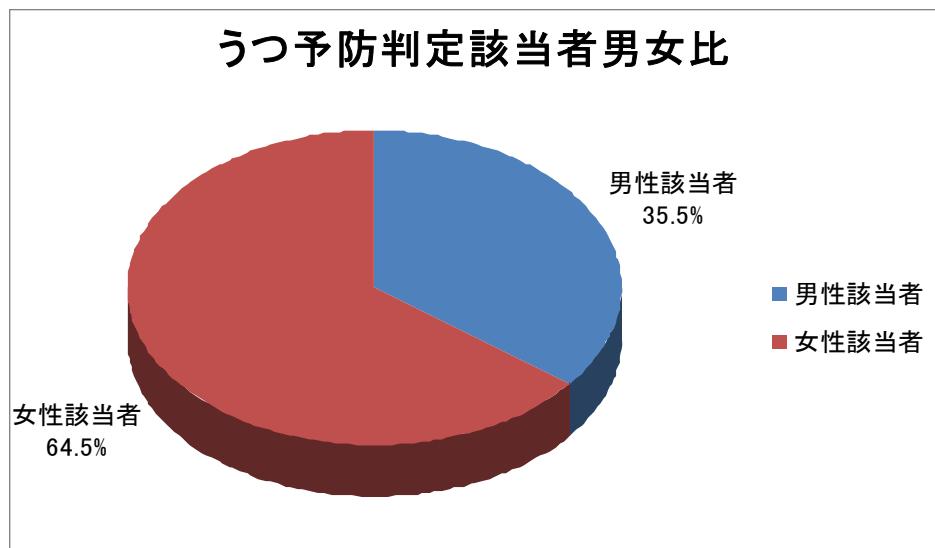
10. うつ予防判定について

(1) うつ予防判定該当者について



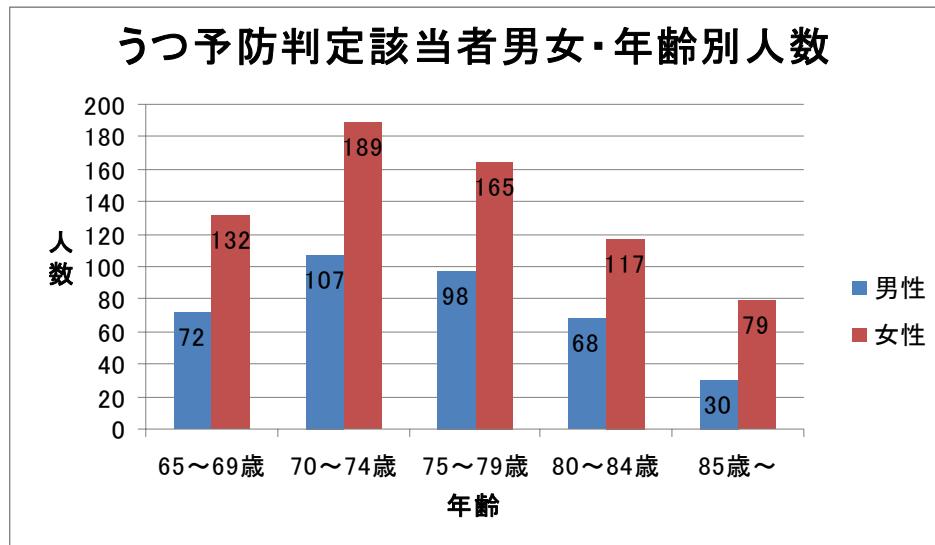
うつ予防判定該当者は、延滞の 34.1%(1057 人)となっている

(2) うつ予防判定該当者男女比について



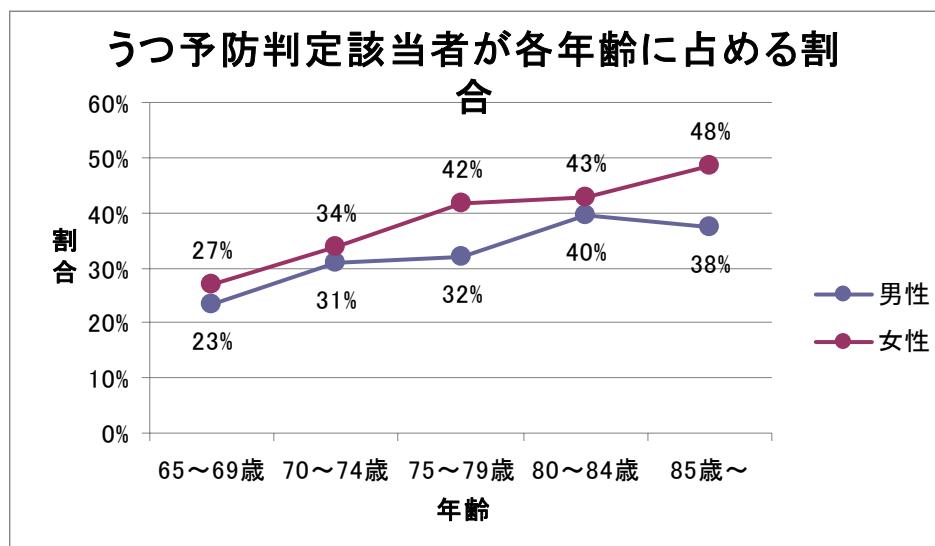
うつ予防判定該当者の男女比は、男性 35.5%、女性 64.5%となっており、全体の男女比と比べると男性が若干少なく、女性が若干多くなっている

(3) うつ予防判定該当者男女・年齢別人数について



うつ予防判定該当者数は、男女とも 70~74 歳が最も多くなっており、そこを頂点とした山形のグラフを形成している

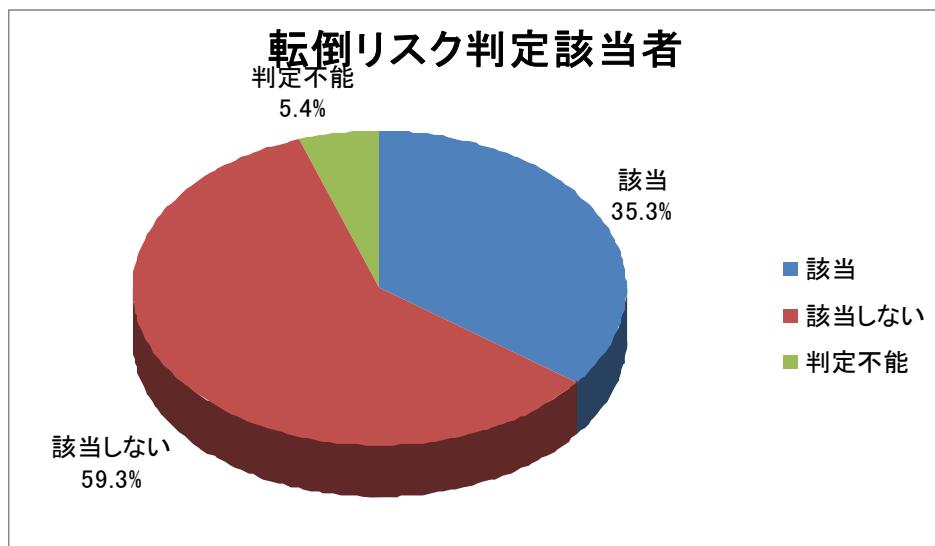
(4) うつ予防判定該当者が各年齢に占める割合について



うつ予防判定該当者が各年齢に占める割合は、女性と比べると男性の割合が若干低い。女性は右肩上がりでうつ予防判定該当者の割合が増加しているが、男性が 85 歳以上で若干減少している

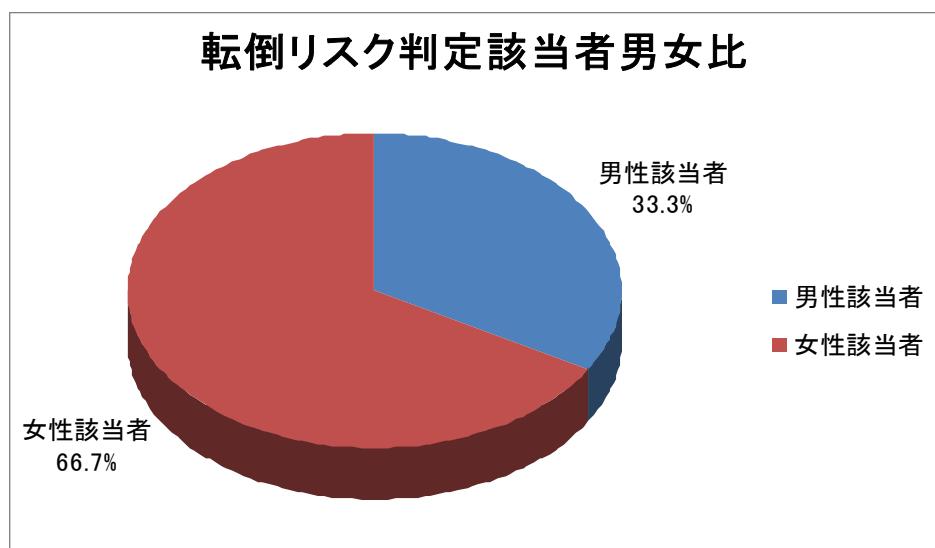
11. 転倒リスク判定について

(1) 転倒リスク判定該当者について



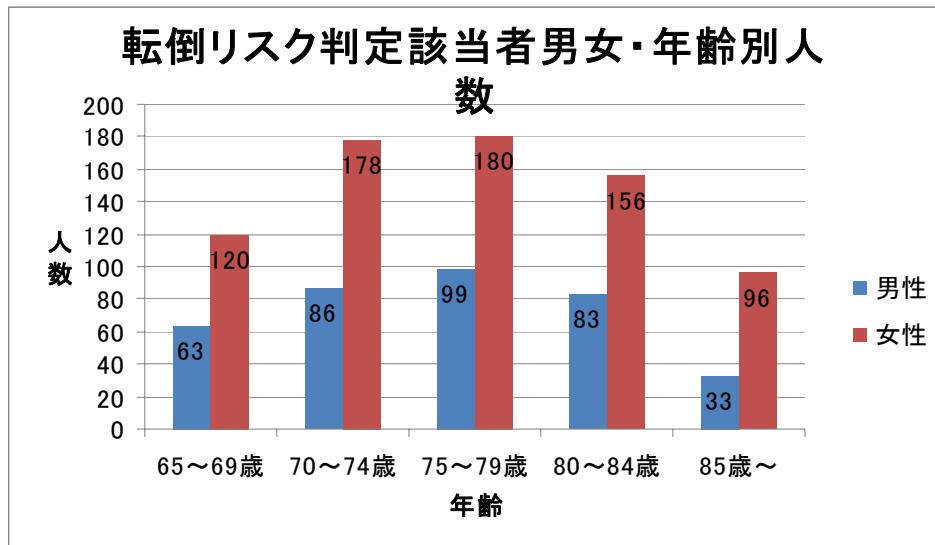
転倒リスク判定該当者は、全体の 35.3%(1094 人)となっている

(2) 転倒リスク判定該当者男女比について



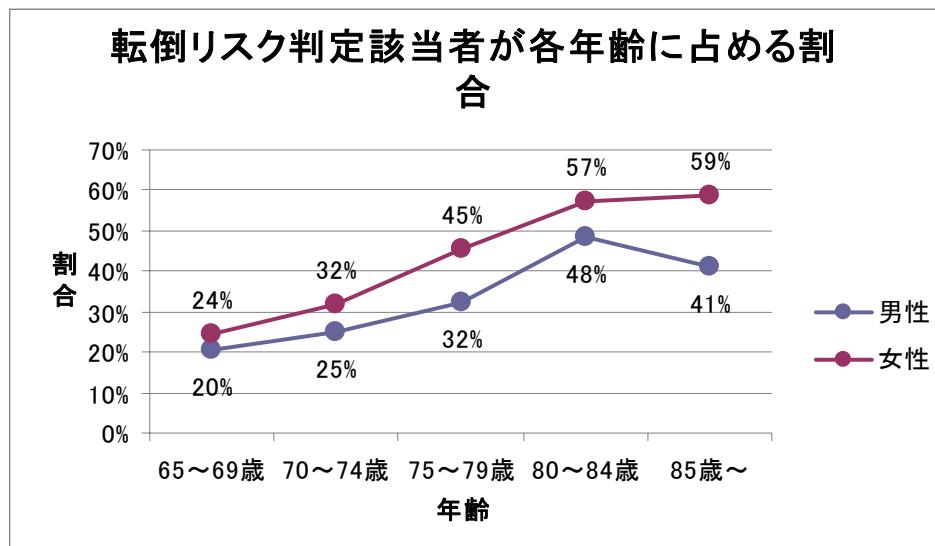
転倒リスク判定該当者男女比は、男性 33.3%、女性 66.7%となっており全体の男女比と比べると
男性が約 7%少なく、女性が約 7%多くなっている

(3) 転倒リスク判定該当者男女・年齢別人数について



転倒リスク該当者数は、男性・女性ともに 75~79 歳が最も多い

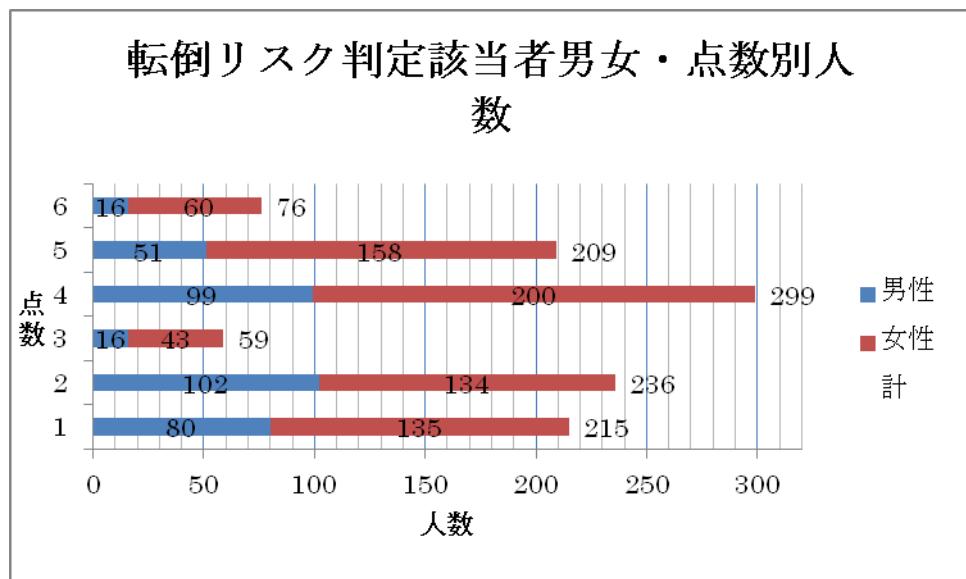
(4) 転倒リスク判定該当者が各年齢に占める割合について



転倒リスク判定該当者が各年齢に占める割合は、女性と比べると男性の割合が低い

男性は 75~79 歳から 80~84 歳の間で転倒リスク判定該当者の割合が急増し、その後 85 歳以上で減少しているが、女性は右肩上がりで割合が増加しており、男女に差がある

(5) 転倒リスク判定該当者男女・点数別人数について



転倒リスク判定該当者の点数が多くなるほどリスクが高くなり、男性は 2 点が最も多く、4 点が次いでいる
女性は 4 点が最も多く、次いで 5 点で、1 点 2 点がほぼ同数となっている

12. ADL 得点について

(1) 男性の年齢別 ADL 得点について

男性						
年齢	100 点	65～95 点	45～60 点	40 点以下	判定不可	合計
65～69 歳	201	56	18	14	25	314
70～74 歳	205	78	21	10	18	332
75～79 歳	146	86	29	14	27	302
80～84 歳	81	44	22	11	18	176
85 歳～	35	25	16	7	9	92
合計	668	289	106	56	97	1216

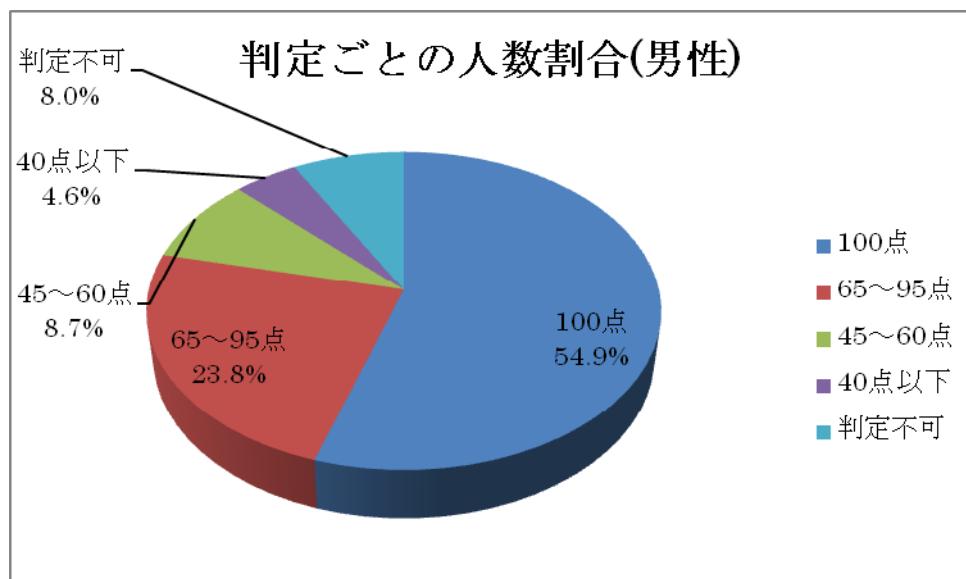
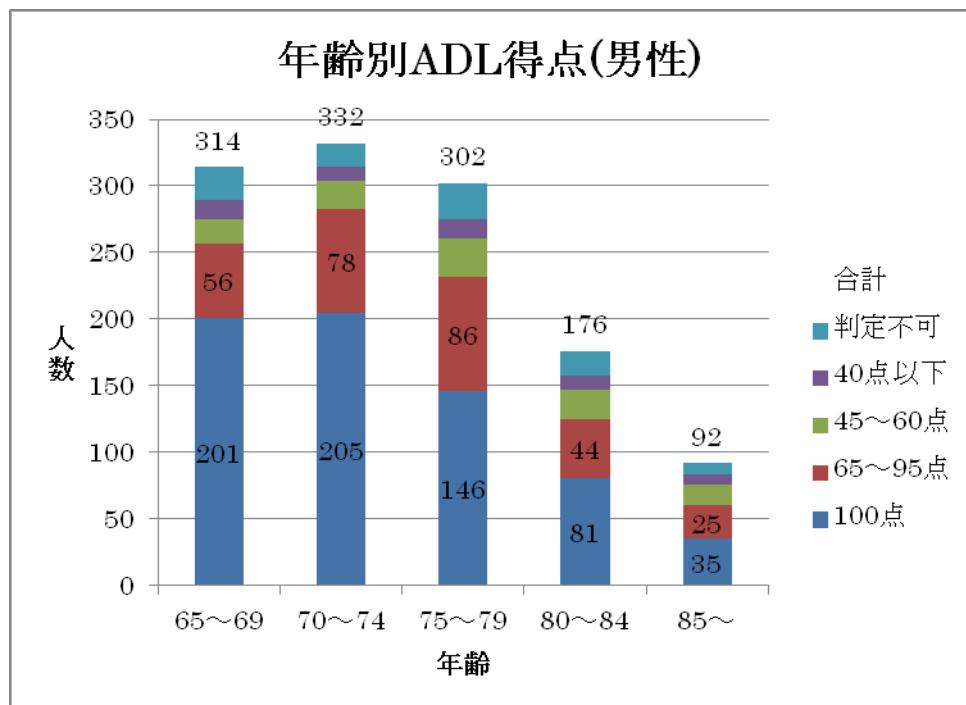
各年齢ごとの ADL 得点(男性)

男性					
年齢	100 点	65～95 点	45～60 点	40 点以下	判定不可
65～69 歳	64.0%	17.8%	5.7%	4.5%	8.0%
70～74 歳	61.7%	23.5%	6.3%	3.0%	5.4%
75～79 歳	48.3%	28.5%	9.6%	4.6%	8.9%
80～84 歳	46.0%	25.0%	12.5%	6.3%	10.2%
85 歳～	38.0%	27.2%	17.4%	7.6%	9.8%

ADL 得点取得者数が各年齢に占める割合(男性)

男性の ADL 得点は 100 点または 65～95 点の高得点の方が大半であるが、高齢になるにつれ 40～60 点または 40 点以下の低得点の方が増加する傾向にある

※ A D L : 食事、排泄、更衣、整容、入浴など日常生活を送るために必要な基本動作のこと
(日常生活動作能力)



男性のADL得点は、40点以下が全男性の4.6%、45~60点が全男性の8.7%となっている

(2) 女性の年齢別 ADL 得点について

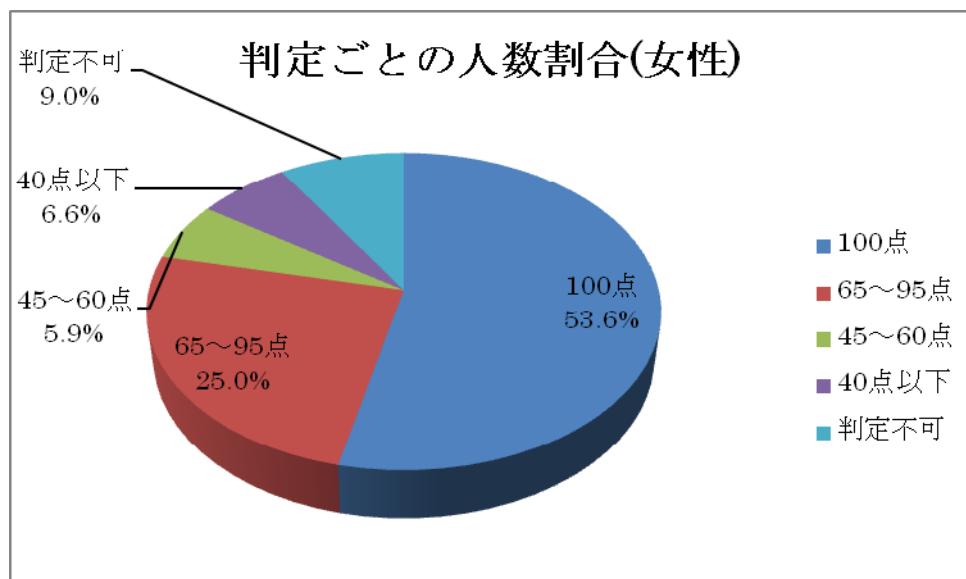
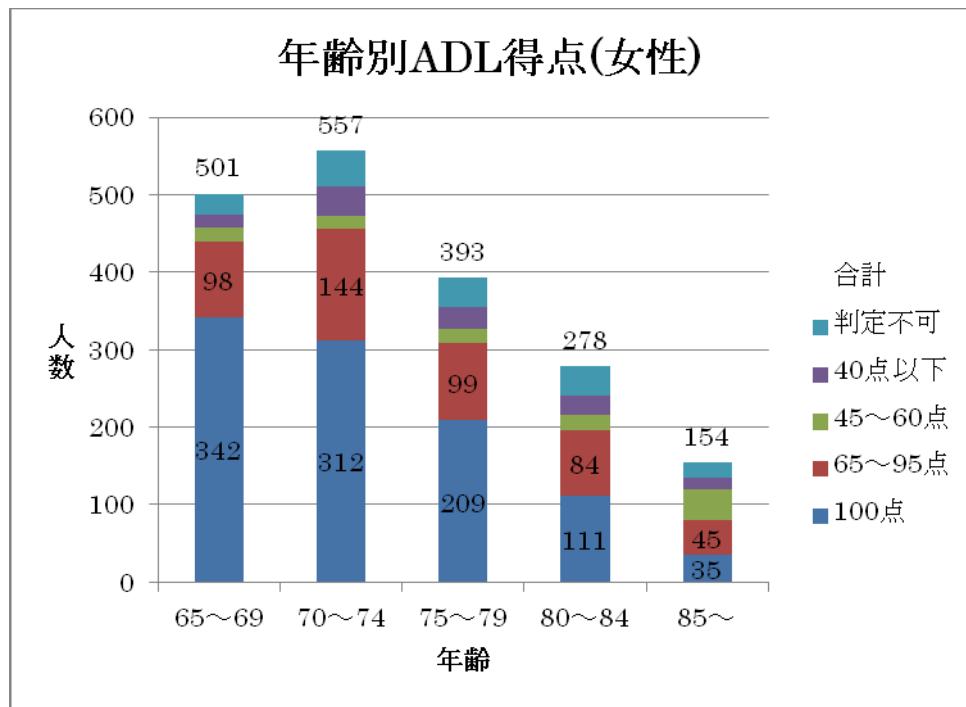
女性						
年齢	100 点	65～95 点	45～60 点	40 点以下	判定不可	合計
65～69 歳	342	98	17	17	27	501
70～74 歳	312	144	17	37	47	557
75～79 歳	209	99	18	29	38	393
80～84 歳	111	84	20	26	37	278
85 歳～	35	45	39	15	20	154
合計	1009	470	111	124	169	1883

各年齢ごとの ADL 得点(女性)

女性					
年齢	100 点	65～95 点	45～60 点	40 点以下	判定不可
65～69 歳	68.3%	19.6%	3.4%	3.4%	5.4%
70～74 歳	56.0%	25.9%	3.1%	6.6%	8.4%
75～79 歳	53.2%	25.2%	4.6%	7.4%	9.7%
80～84 歳	39.9%	30.2%	7.2%	9.4%	13.3%
85 歳～	22.7%	29.2%	25.3%	9.7%	13.0%

ADL 得点取得者数が各年齢に占める割合(女性)

女性の ADL 得点は 100 点または 65～95 点の高得点の方が大半であるが、高齢になるにつれ 40～60 点または 40 点以下の低得点の方が増加する傾向にある



女性のADL得点は、40点以下が全女性の6.6%、45~60点が全女性の5.9%となっている

13. IADL 判定について

(1) 男性の年齢別 IADL 判定について

年齢	男性				
	高い	やや低い	低い	判定不能	合計
65～69 歳	243	28	15	25	311
70～74 歳	283	30	17	17	347
75～79 歳	216	31	24	25	296
80～84 歳	130	14	17	17	178
85 歳～	54	11	13	6	84
計	926	114	86	90	1216

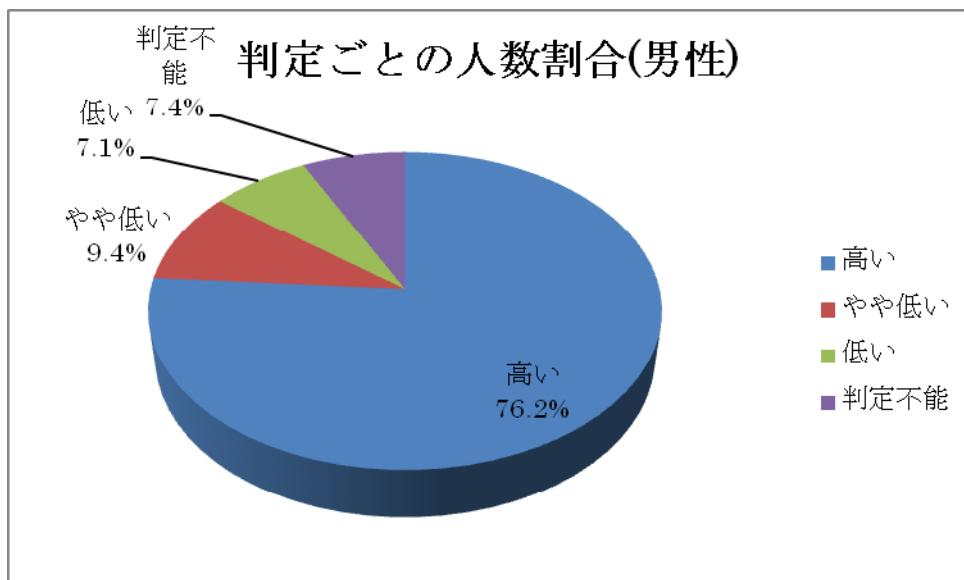
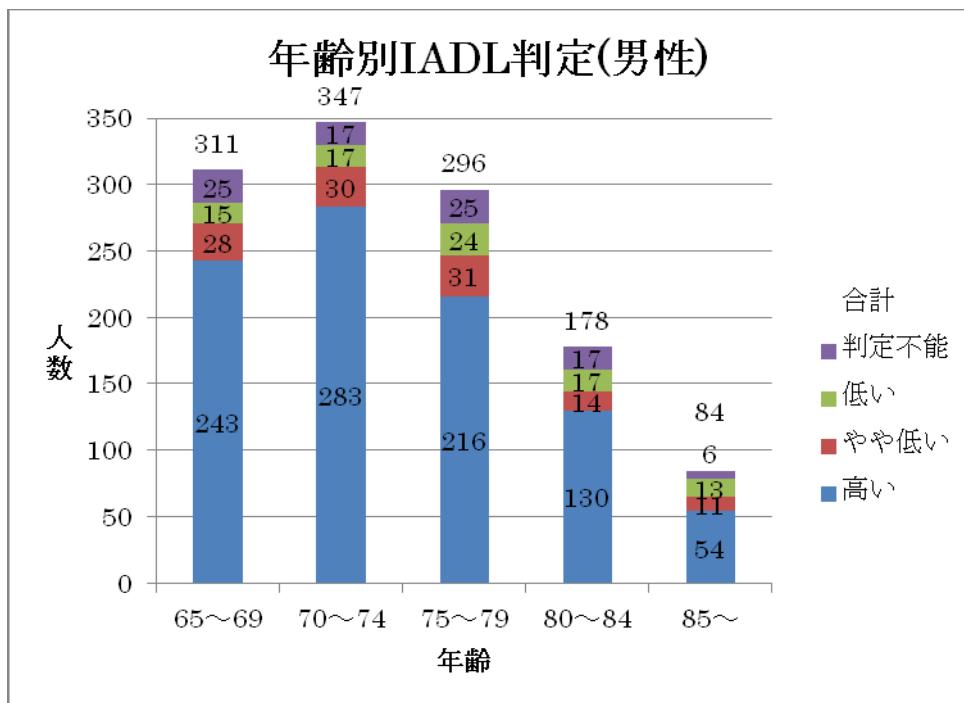
各年齢ごとの IADL 判定(男性)

男性				
年齢	高い	やや低い	低い	判定不能
65～69 歳	78.1%	9.0%	4.8%	8.0%
70～74 歳	81.6%	8.6%	4.9%	4.9%
75～79 歳	73.0%	10.5%	8.1%	8.4%
80～84 歳	73.0%	7.9%	9.6%	9.6%
85 歳～	64.3%	13.1%	15.5%	7.1%

IADL 判定者数が各年齢に占める割合(男性)

男性の IADL 判定は「高い」が大半であるが、「低い」の判定の方も各年齢で 10 名以上おり
全年齢あわせて 86 名の方が「低い」と判定されている、特に 75～79 歳では 24 名と他の年齢より
若干多くなっている

※ I A D L : 買物、洗濯、電話、薬の管理など活動的な日常生活を送るための動作のこと
(手段的日常生活動作)



男性の IADL 判定は、「低い」が男性全体の 7.1%、「やや低い」が 9.4%を占めており
女性とくらべると高い割合となっている

(2) 女性の年齢別 IADL 判定について

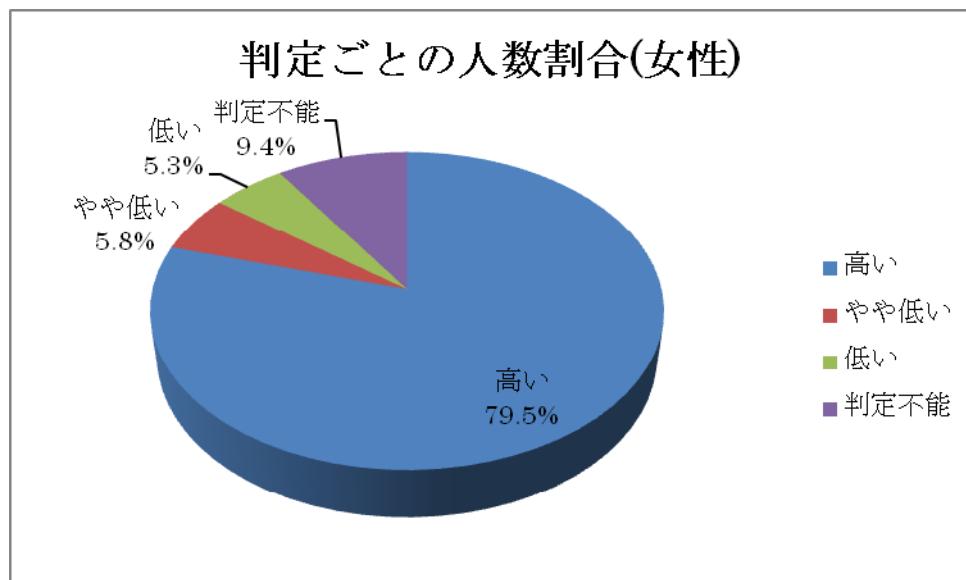
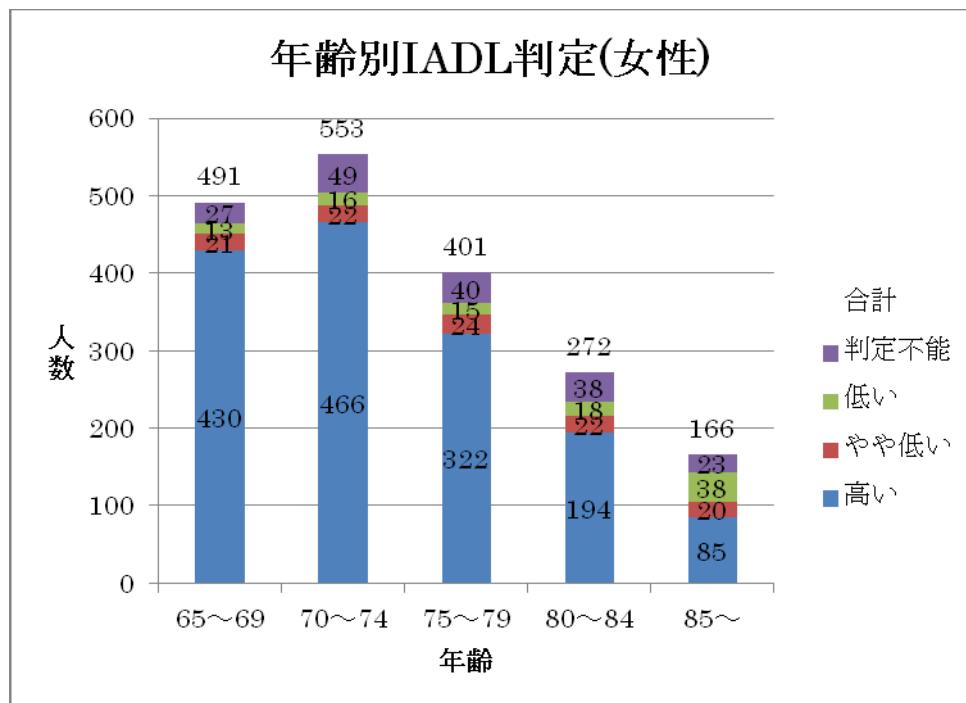
年齢	女性				
	高い	やや低い	低い	判定不能	合計
65～69 歳	430	21	13	27	491
70～74 歳	466	22	16	49	553
75～79 歳	322	24	15	40	401
80～84 歳	194	22	18	38	272
85 歳～	85	20	38	23	166
計	1497	109	100	177	1883

各年齢ごとの IADL 判定(女性)

女性				
年齢	高い	やや低い	低い	判定不能
65～69 歳	87.6%	4.3%	2.6%	5.5%
70～74 歳	84.3%	4.0%	2.9%	8.9%
75～79 歳	80.3%	6.0%	3.7%	10.0%
80～84 歳	71.3%	8.1%	6.6%	14.0%
85 歳～	51.2%	12.0%	22.9%	13.9%

IADL 判定者数が各年齢に占める割合(女性)

女性の IADL 判定も「高い」が大半であるが、「低い」の判定の方も各年齢で 10 名以上おり
全年齢あわせて 100 名の方が「低い」と判定されている、特に 85 歳以上では 38 名と他の年齢より
多くなっている



女性の IADL 判定は、「低い」が女性全体の 5.3%、「やや低い」が 5.8%を占めている
男性と比べると低い割合となっている

14. 知的運動性について

(1) 男性の知的運動性判定について

男性					
年齢	高い	やや低い	低い	判定不能	合計
65～69 歳	172	84	35	18	309
70～74 歳	204	65	60	16	345
75～79 歳	155	72	62	17	306
80～84 歳	92	37	32	12	173
85 歳～	34	19	24	6	83
計	657	277	213	69	1216

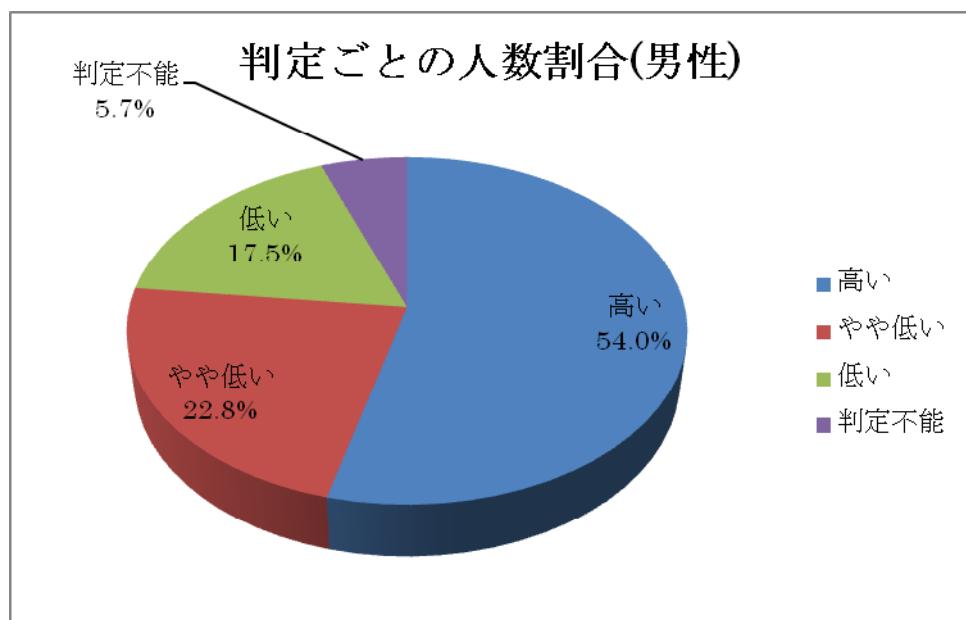
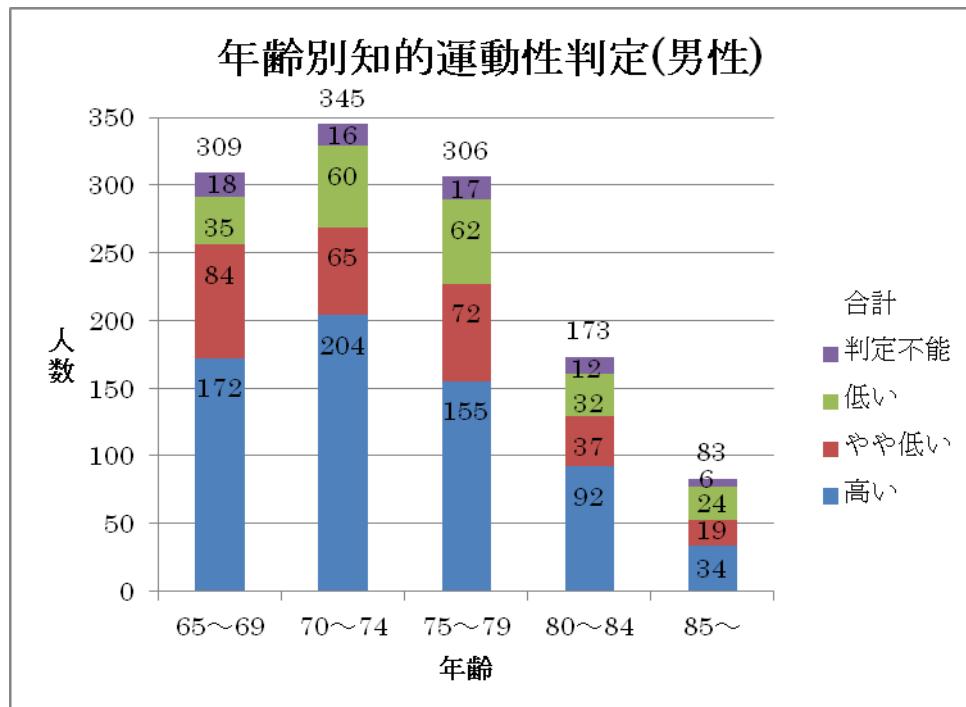
各年齢ごとの知的運動性判定(男性)

男性				
年齢	高い	やや低い	低い	判定不能
65～69 歳	55.7%	27.2%	11.3%	5.8%
70～74 歳	59.1%	18.8%	17.4%	4.6%
75～79 歳	50.7%	23.5%	20.3%	5.6%
80～84 歳	53.2%	21.4%	18.5%	6.9%
85 歳～	41.0%	22.9%	28.9%	7.2%

知的運動性判定者数が各年齢に占める割合(男性)

男性の知的運動性判定は「高い」方が多いが、「やや低い」「低い」方も、それぞれ 200 名以上いる

※知的能動性：余暇や創作など生活を楽しむ能力



男性の知的運動性判定は、「低い」が男性全体の 17.5%、「やや低い」が 22.8%を占めている
女性とほぼ同じ割合となっている

(2) 女性の知的運動性判定について

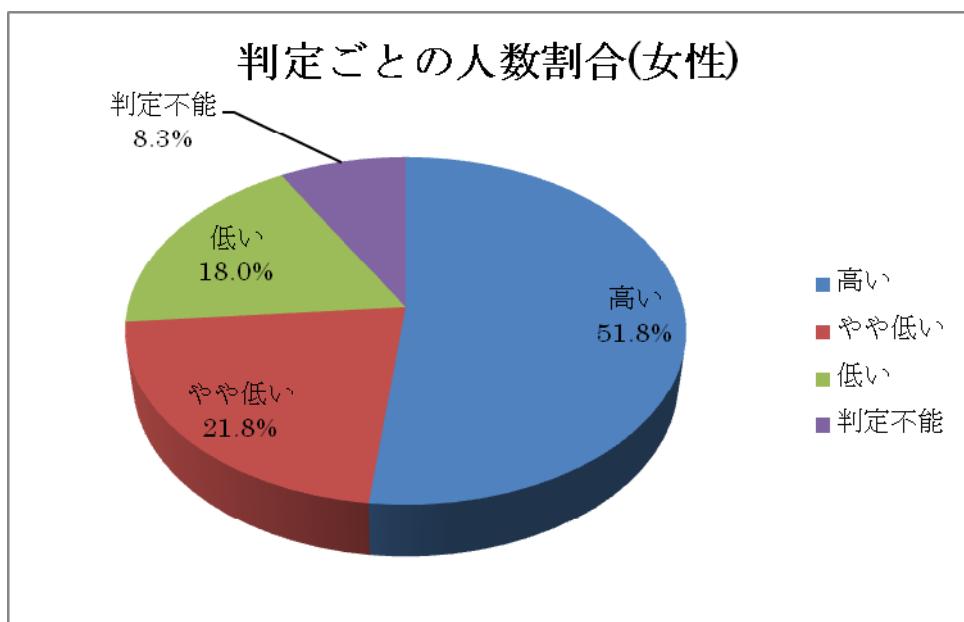
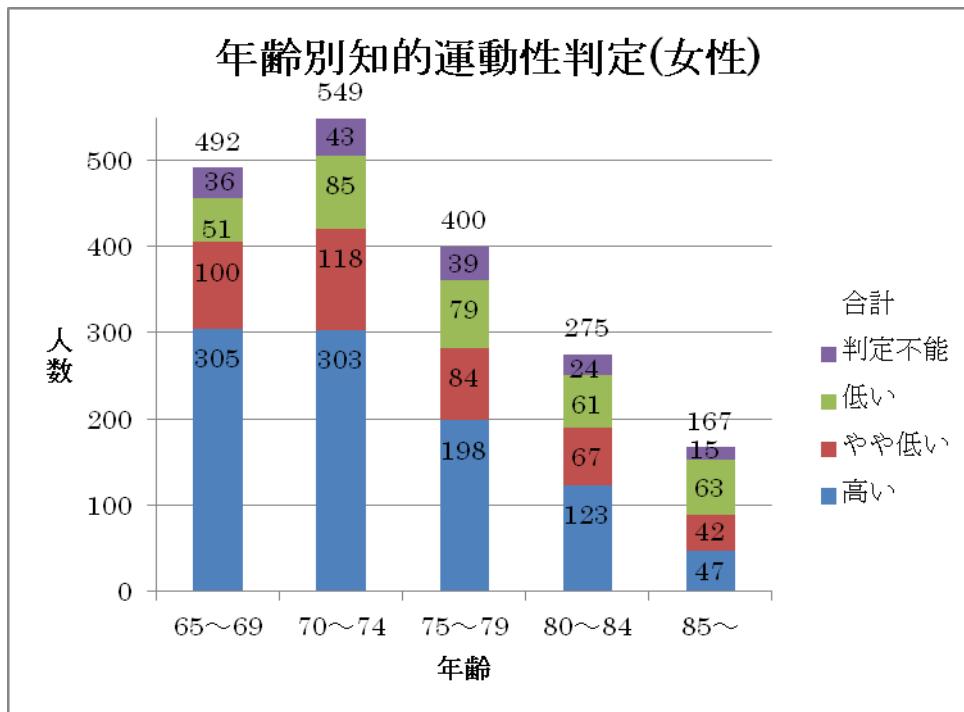
女性					
年齢	高い	やや低い	低い	判定不能	合計
65～69 歳	305	100	51	36	492
70～74 歳	303	118	85	43	549
75～79 歳	198	84	79	39	400
80～84 歳	123	67	61	24	275
85 歳～	47	42	63	15	167
計	976	411	339	157	1883

各年齢ごとの知的運動性判定

女性				
年齢	高い	やや低い	低い	判定不能
65～69 歳	62.0%	20.3%	10.4%	7.3%
70～74 歳	55.2%	21.5%	15.5%	7.8%
75～79 歳	49.5%	21.0%	19.8%	9.8%
80～84 歳	44.7%	24.4%	22.2%	8.7%
85 歳～	28.1%	25.1%	37.7%	9.0%

知的運動性判定者数が各年齢に占める割合

女性の知的運動性判定は「高い」の方が多いが、「やや低い」「低い」の方も、それぞれ 300 名以上いる



女性の知的運動性判定は、「低い」が女性全体の 18.0%、「やや低い」が 21.8%を占めており
男性とほぼ同じ割合となっている

15. 社会的役割について

(1) 男性の社会的役割判定について

男性					
年齢	高い	やや低い	低い	判定不能	合計
65～69 歳	153	63	73	20	309
70～74 歳	175	75	77	17	344
75～79 歳	131	69	82	25	307
80～84 歳	73	45	44	14	176
85 歳～	23	14	35	8	80
計	555	266	311	84	1216

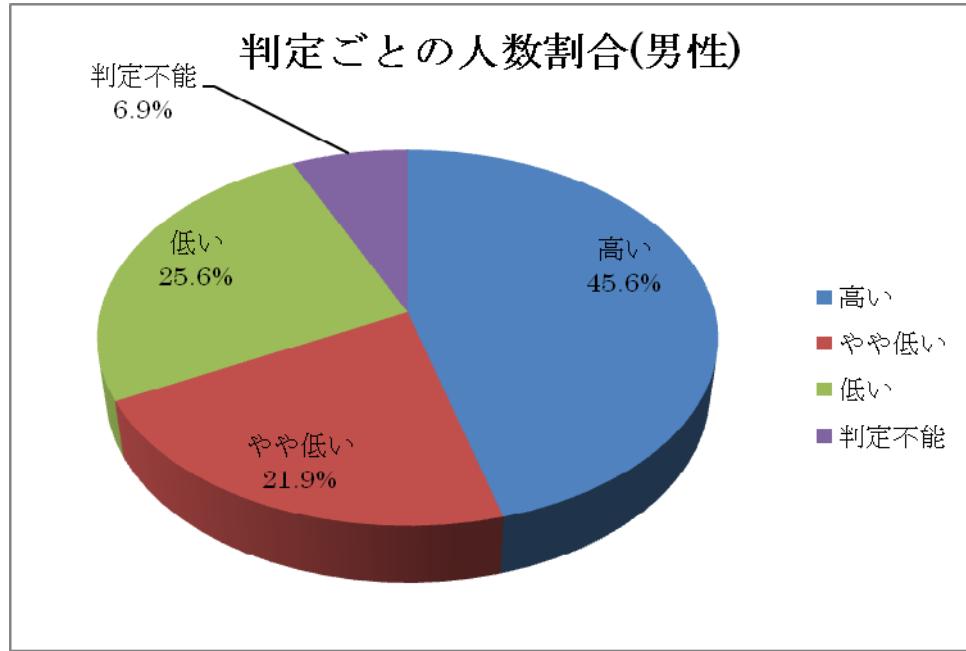
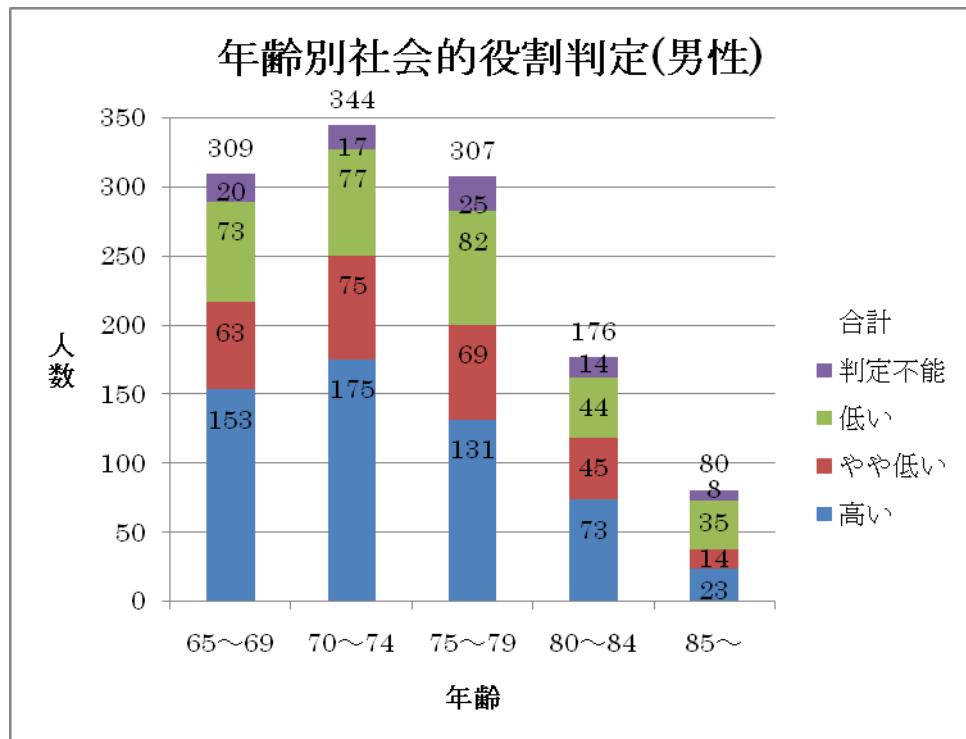
各年齢ごとの社会的役割判定(男性)

男性				
年齢	高い	やや低い	低い	判定不能
65～69 歳	49.5%	20.4%	23.6%	6.5%
70～74 歳	50.9%	21.8%	22.4%	4.9%
75～79 歳	42.7%	22.5%	26.7%	8.1%
80～84 歳	41.5%	25.6%	25.0%	8.0%
85 歳～	28.8%	17.5%	43.8%	10.0%

社会的役割判定者数が各年齢に占める割合(男性)

男性の社会的役割判定は「低い」が合計 311 名おり、中でも 85 歳以上の方の 43.8% が「低い」と判定されており、他の年齢と比べると高い割合となっている。また、「高い」の割合は 85 歳以上の方が 28.8% と最低になっている

※社会的役割：地域で社会的な役割を果たす能力



男性の社会的役割判定は「やや低い」が21.9%、「低い」が25.6%を占めており、女性と比べると若干高い割合となっている

(2) 女性の社会的役割判定について

女性					
年齢	高い	やや低い	低い	判定不能	合計
65～69 歳	291	91	66	42	490
70～74 歳	304	124	81	45	554
75～79 歳	194	79	82	45	400
80～84 歳	115	55	73	30	273
85 歳～	38	45	59	24	166
計	942	394	361	186	1883

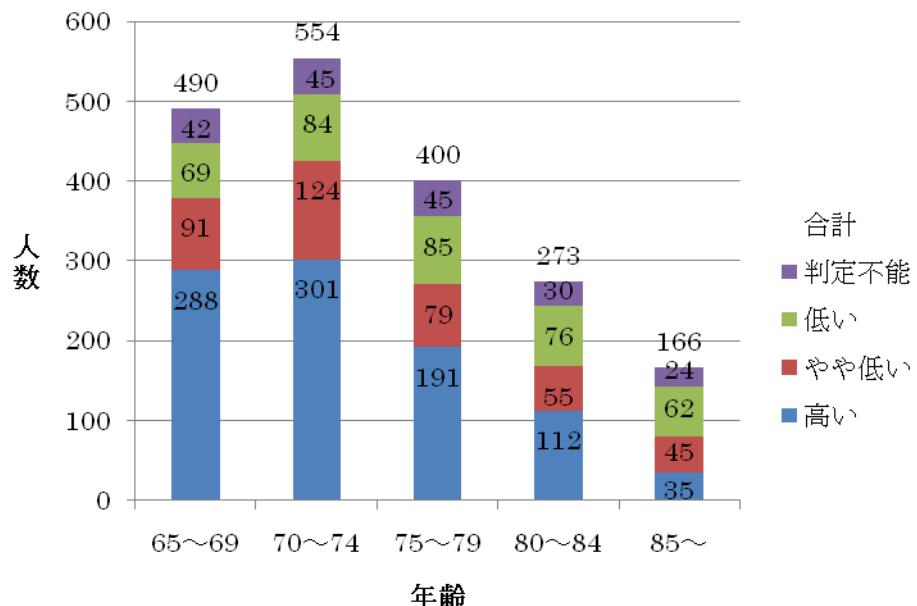
各年齢ごとの社会的役割判定(女性)

女性				
年齢	高い	やや低い	低い	判定不能
65～69 歳	59.4%	18.6%	13.5%	8.6%
70～74 歳	54.9%	22.4%	14.6%	8.1%
75～79 歳	48.5%	19.8%	20.5%	11.3%
80～84 歳	42.1%	20.1%	26.7%	11.0%
85 歳～	22.9%	27.1%	35.5%	14.5%

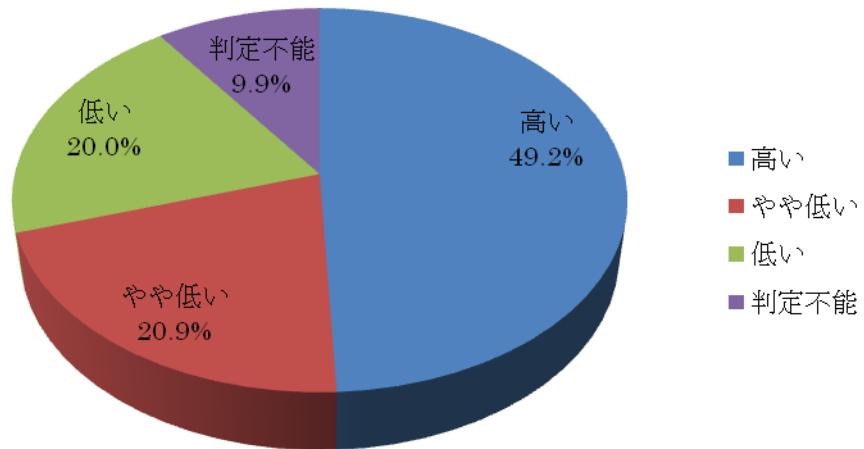
社会的役割判定者数が各年齢に占める割合(女性)

女性の社会的役割判定は「低い」が合計 361 名おり、中でも 85 歳以上の方の 35.5%が「低い」と判定されており、他の年齢と比べると高い割合となっている、逆に「高い」の割合も 85 歳以上の方が 22.9%と最低になっている

年齢別社会的役割判定(女性)

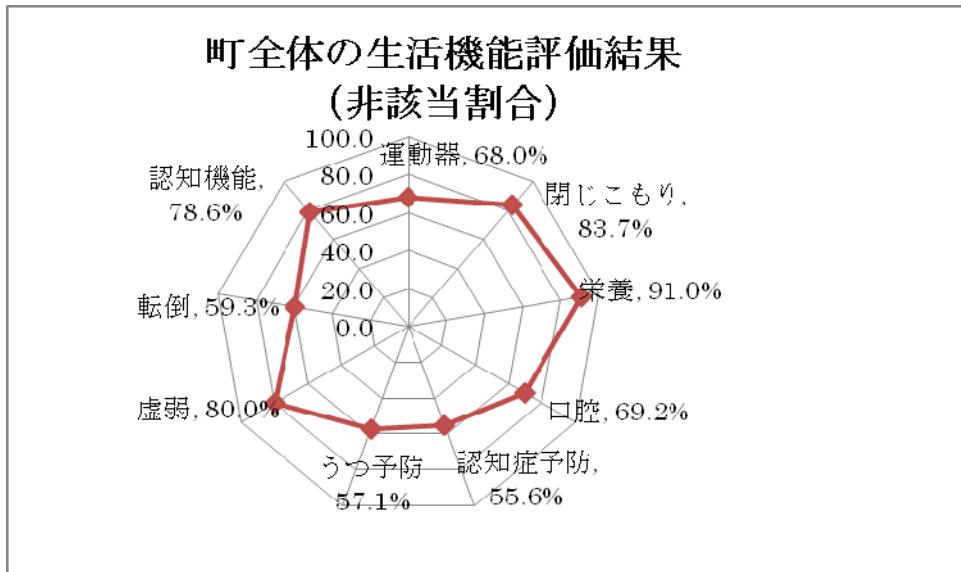


判定ごとの人数割合(女性)



女性の社会的役割判定は「やや低い」が20.9%、「低い」が20.0%を占めており、男性と比べると若干低い割合となっている

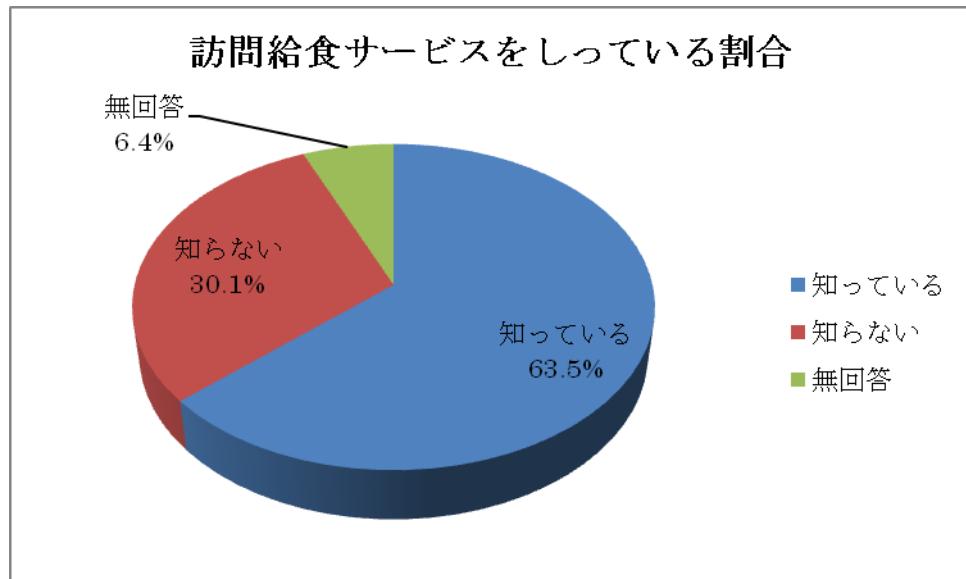
16. 岩内町全体の生活機能評価結果について



生活機能の評価を町全体で見ると、非該当者割合では「栄養」(91.0%)が最も高く、次いで「閉じこもり」(83.7%)の順になっており、一方、最も低いのは「認知症予防」(55.6%)で次いで「うつ予防」(57.1%)、「転倒」(59.3%)の順となっている。

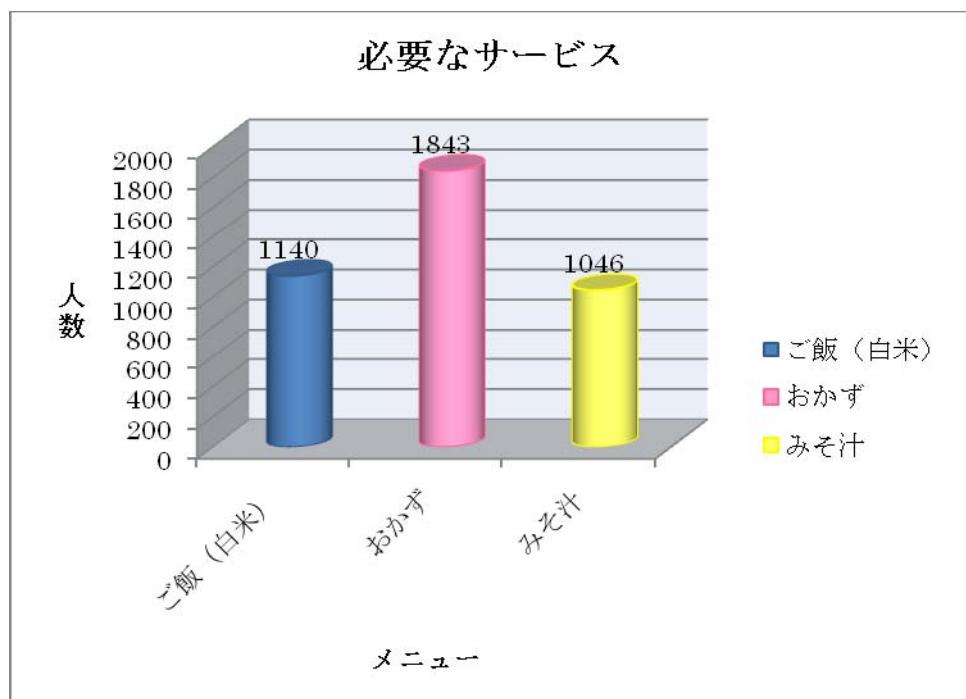
17. 訪問給食サービスについて

(1) 訪問給食サービスを知っている人数について



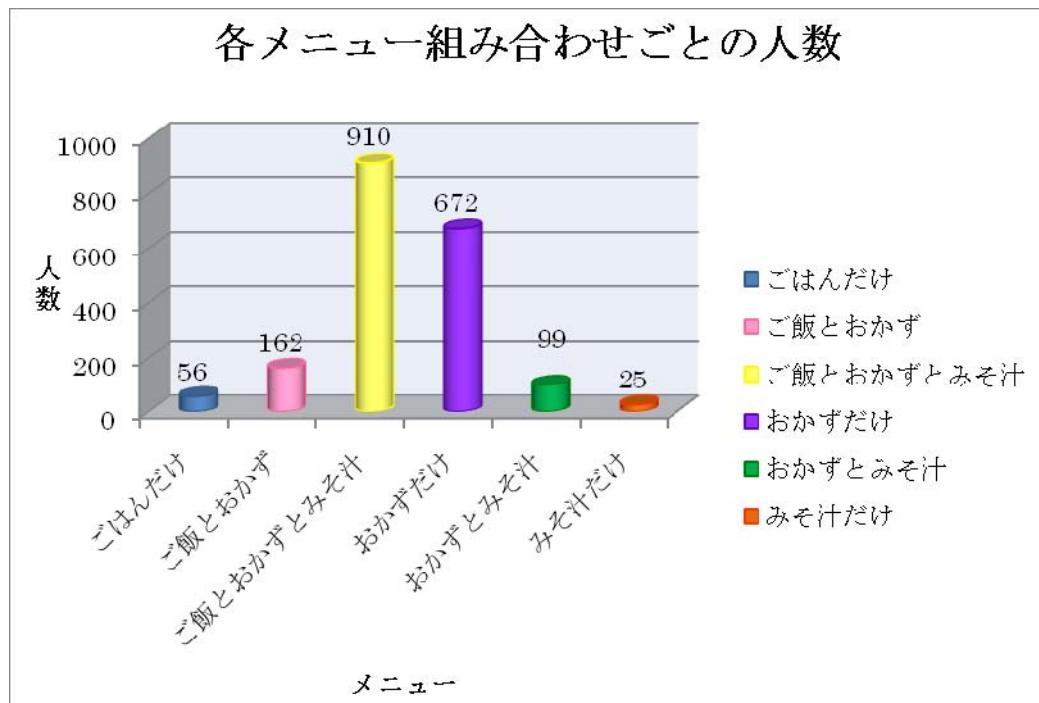
「訪問給食サービスを知っているか」という問いに 63.5%が「知っている」と回答した

(2) 訪問給食サービスの提供内容について



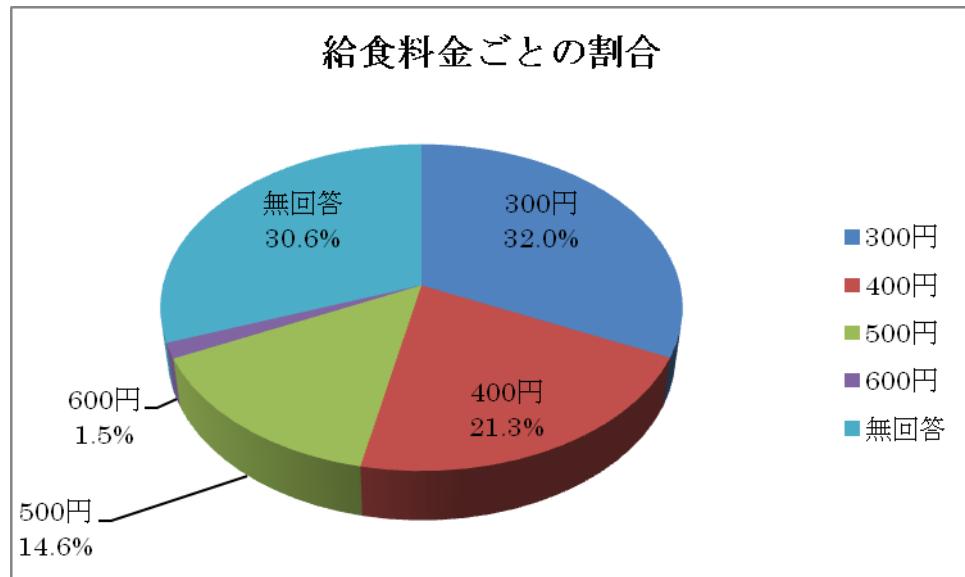
「配達の内容として必要なものはどれか」(複数回答)との問いには、「おかず」と答えた人が最も多かった

(3) メニューの組み合わせごとの人数について



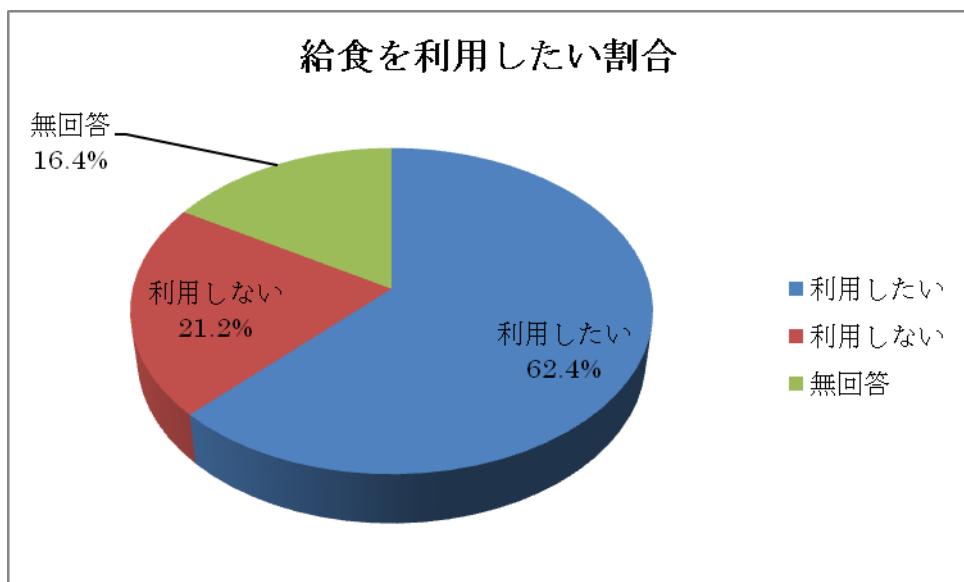
各メニューの組み合わせごとの人数は、「ご飯とおかずとみそ汁」とメニュー全てを求めている人が最も多く、「おかずだけ」が次いでいる

(4) 訪問給食サービスの値段について



「給食代金は、1食いくらが良いか」との問い合わせには「300円」という回答が30.2%で最も多かった

(5) 訪問給食サービスを利用したいかについて



「今後食事の用意が難しくなった場合、訪問給食サービスを利用したいか」との問いには
「利用したい」との回答が 62.4%と最も多かった

※訪問給食サービス：食事を貰うことが困難な方の居宅を訪問し、給食を提供するサービス
(事業主体：岩内町)

以 上